

重点目標 16 子どもたちの放課後の育ちの保障 担当：地域教育推進課

近年は、誘拐などにより子どもたちが犯罪等に巻き込まれるなど、放課後の子どもたちが安全に遊べる場所が少なくなっている。また、核家族化の進行などにより、子どもたちが地域で様々な体験を経験する機会が減ってきている。一方、共働き世帯も増加し、子どもたちに放課後の安全安心な居場所の提供と生きる力を育むための体験活動の機会を充実していくことが求められている。

そのため、放課後児童会の適正な運営に努めるとともに、放課後子ども教室の充実に取り組み、放課後子ども総合プランを推進する。

また、市民やボランティア団体、大学等と連携し、子どもたちが様々な体験ができるよう取り組むとともに、より多くの参加を促すため、情報発信の強化にも取り組む。

【平成 29 年度の主な取組み】

1. 放課後児童会の適切な運営

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生を対象として、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るため、市内 12 ヶ所で放課後児童会を運営する。

【事業名：放課後児童会運営事業】

2. 放課後子ども総合プランの安定した実施

放課後に子どもたちが安全で安心できる居場所として、余裕教室を利用し、地域の方々の協力を得て、放課後子ども教室を実施し、様々な体験活動を提供し、子どもたちの「生きる力」を育む。

【事業名：放課後子ども教室事業】

3. くろまるキッズ制度の普及

市主催事業や地域団体のイベントなどを「くろまるキッズ」認定事業とし、講座やイベントなどの情報を集約し、分かりやすく提供するとともに、小中学生の参加者にポイントを付与する。

また、一定のポイント数を得た応募者全員に証書を授与するなどにより、事業への参加意欲の高揚を図る。

【事業名：くろまるキッズ事業】

平成 29 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	A	有効性	B
児童数が急増する中、「河内長野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」の設置基準を遵守し、待機児童を出さないよう、クラスの増設等の整備を実施した。また、重点施策 17、18 の目標達成にも多く貢献した。					
平成 29 年度の実績及び成果					
☐ 放課後児童会においては、開設時間の延長を継続して実現した。また休会日の短縮（1 月 4 日・5 日の開設）を行い、市民のニーズ及び国の運営指針にあった運営を実現した。					
☐ 「放課後子ども教室」については、放課後の子どもたちの安全・安心な活動場所や居場所づくりのため、ボランティアなどの協力を得て運営を行い、地域社会全体で子どもの豊かな成長を育んだ。					
☐ 現在市内で実施されている様々な講座やイベントの情報を集約してわかりやすく提供し、それらにポイントシールがもらえる「くろまるキッズ」を運用した。					

各事業の実績等

1. 放課後児童会運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生（１年生から６年生）に対し、保護者に代わって適切な遊び及び生活の場を提供し、その健全な育成を図ることを目的に市内 12 ヶ所で放課後児童会を運営。

(2) 平成 29 年度の実績

平成 29 年度は、児童数は増加し、計 31 クラス体制となったが、待機児童を出すことなく運営を行った。

放課後児童会の平日夕方の開所時間の 1 時間繰り下げと、土曜日、夏休み期間等の開始時間の 1 時間の前倒しを行う時間延長を継続した。また休会日の短縮（１月 4 日・5 日の開設）を行い、安全で安心な児童の居場所の確保の充実に努めた。

児童会の運営を担う放課後児童会支援員については、非常勤嘱託員等を配置し、年間実施計画に基づく研修を定期的に実施（月 1 回程度）することで資質の向上に努めた。

また、障がいの程度に応じてアルバイト職員を児童会に加配し、障がい児に対するきめ細やかな支援を行った。

<児童会一覧>

児童会名	クラス数	児童数（内、土曜登録者数）（内、時間延長登録者数）
長野放課後児童会	5	160名（48名）（24名）
三田市放課後児童会	4	157名（31名）（16名）
加賀田放課後児童会	2	63名（21名）（6名）
千代田放課後児童会	3	122名（38名）（19名）
高向放課後児童会	1	34名（15名）（6名）
川上放課後児童会	2	71名（17名）（11名）
小山田放課後児童会	3	92名（30名）（14名）
南花台放課後児童会	2	56名（17名）（11名）
天野放課後児童会	1	34名（15名）（7名）
美加の台放課後児童会	3	89名（25名）（16名）
楠放課後児童会	3	96名（34名）（22名）
石仏放課後児童会	2	59名（16名）（8名）
合 計	31	1,033名（307名）（160名）

（平成 29 年 5 月 1 日現在）

2. 放課後子ども教室事業【継続事業】

(1) 事業の目的

放課後の子どもたちに安全・安心な活動場所を設け、ボランティアの方など地域社会全体で子どもの豊かな成長を育む。

(2) 平成 29 年度の実績

放課後主に 5 時間目終了後、子どもたちに安全・安心な活動場所を設け、地域の方々の協力を得ながら工作や読み聞かせ、レクリエーション、手話教室等、様々な体験の機会を提供する「放課後子ども教室」を市内全 13 小学校で開催した。

また、放課後子ども教室への参加は、自由選択型の事前申込制で、参加費用は無料。

実施場所	実施曜日	実施回数	対象学年	延べ参加者数（平均参加者数）
千代田小学校	隔週 金曜日	8 回	2 年生	298 名（37 名）
長野小学校	隔週 木曜日	11 回	2 年生	338 名（30 名）
小山田小学校	隔週 金曜日	15 回	2・3 年生	1,065 名（71 名）
天野小学校	隔週 火曜日	10 回	1・2 年生	449 名（44 名）
高向小学校	隔週 金曜日	10 回	2・3 年生	229 名（22 名）
三日市小学校	隔週 木曜日	10 回	2 年生	315 名（31 名）
加賀田小学校	隔週 木曜日	10 回	2 年生	248 名（24 名）
天見小学校	毎週 月・金曜日	46 回	1～3 年生	1,200 名（26 名）
楠小学校	隔週 金曜日	9 回	2 年生	232 名（25 名）
石仏小学校	隔週 木曜日	9 回	2 年生	155 名（17 名）
川上小学校	隔週 火曜日	11 回	2 年生	322 名（29 名）
美加の台小学校	隔週 木曜日	10 回	2 年生	366 名（36 名）
南花台小学校	隔週 木曜日	9 回	2 年生	258 名（28 名）
合 計		168 回		5,475 名（32 名）

3. 駅前子ども教室事業【継続事業】

(1) 事業の目的

河内長野駅前という実際の街の中を活動フィールドとして、年 3 回日曜日に、ボランティアの方の協力を得て、街の中ならではの体験活動を提供し、子どもたちの主体性や創造力、コミュニケーション力といった「生きる力」を育むことを目的として実施した。

(2) 平成 29 年度の実績

学生等、若い世代とともに子どもたちの生きる力を育むことにも取り組み、大学の授業における実践の場として駅前子ども教室を利用してもらい、新しい体験型の教室を開催した。

実 施 日 平成 29 年 7 月 16 日（日）、11 月 19 日（日）、12 月 24 日（日）

実施時間 午前 10 時～午後 4 時

実施場所 子ども交流ホール、にぎわいプラ座、ノバティホール、府営長野公園等

講座数 17 講座 参加者：423 名 参加ボランティア：45 名

講座内容 車型貯金箱を作って遊ぼう！（大阪大谷大学）、ハッピークリスマス☆みんなで音楽を楽しもう♪（大阪千代田短期大学）、紙のタワーに登ってみよう（大阪府立大学 I R I S）、ゼンマイ仕掛けのおもちゃ「鳥が食べたいワニ」（特定非営利活動法人アートクラブ）、長野公園の「竹」で遊んでみよう！（府営長野公園）、楽しく Dance！（長野総合スポーツクラブ）、カラーボンドでつくるラテ☆アート（ABCクラフト）等

4. くろまるキッズ事業【継続事業】

(1) 事業の目的

現在市内で実施されている様々な講座やイベントの情報を集約してわかりやすく提供するとともに、小中学生の地域行事への参加を促進することで、小中学生が地域の大人とのつながりを深め、地域全体で子どもたちを育むことができる仕組みづくりを目的とする。

(2) 平成 29 年度の実績

くろまるキッズポイント制度

市や関係団体、民間が実施している講座、教室、イベント等（以下「講座等」という。）を「認定講座」として登録し、小中学生が講座等に参加するとポイントシールがもらえる仕組みにより、講座等への参加をポイントで表し、それを表彰することで、参加意欲の高揚を図ることを目的に実施。

このことにより、参加する機会がなかった講座等にも積極的に子どもたちが参加するようになり、地域等とのつながりを深めることができたほか、様々な講座を受講することで、市内で行われている活動や体験への参加意欲を高めるきっかけづくりを行った。

今後の課題及び次年度以降の取組みについて

- ☐ 放課後児童会への高まるニーズに対応するため、放課後児童会支援員の確保・育成、及び施設整備に務める。
- ☐ 厚生労働省令に基づき制定した放課後児童会設置基準条例の基準を遵守し適正な運営を行う。
- ☐ 放課後子ども教室において、子どもたちへの魅力ある教室実施、運営を行っていく一方で、委託団体や地域ボランティア・団体の活動機会増加促進を図る。

重点目標 17 家庭の教育力の向上

担当：地域教育推進課

近年、家庭の教育力低下が課題となっている。そこで、家庭教育講座等の各種学習活動や学校、子ども・子育て総合センターとの連携による事業を実施している。また、地域ぐるみの子育てをサポートする市民主体の活動も始まっているが、更なる地域ぐるみの子育て支援が課題となっている。

そのため、大阪府教育委員会が作成した「親(おや)学習(がくしゅう)(※)プログラム」に基づく本市独自の取組みである「親楽習(おやがくしゅう)」事業の充実を図る。まず、保護者を対象とした家庭の教育力向上に向けた学習機会の提供をはじめ、祖父母世代や地域住民を対象とした学習機会の提供に努める。一方、将来の親世代としての小中高校生に対する親学習を充実するとともに、地域ぐるみの市民主体による家庭の教育力向上のための取組みとして「河内長野親力(おやりよく)(※)推進協議会」の活動支援等、市民・地域とともに、家庭の教育力向上に努める。

【平成 29 年度の主な取組み】

1. 家庭教育講座や親(おや)学習(がくしゅう)等の学習機会の提供

各公民館において、家庭教育講座を開催するとともに、各小中学校園のPTAと共催する家庭教育講座、小学校と連携し、新小学1年生の保護者を対象とした子育て講座を開催する。

また、保護者や小中学生を対象とした「親楽習(おやがくしゅう)」講座を充実させ、親力(おやりよく)アップを図る。

【事業名：家庭教育・子育て支援事業】

2. 市民主体による「親力(おやりよく)推進協議会」の活動の支援

平成 26 年度に社会教育委員を中心として発足した「親力(おやりよく)推進協議会」の活動の推進・充実を支援し、市民主体による親力(おやりよく)のアップを図る。

【事業名：家庭教育・子育て支援事業】

3. 親学習リーダーの養成

「親楽習(おやがくしゅう)」事業を推進、充実させるため、親楽習の進行役である「親楽習(おやがくしゅう)リーダー」を養成するための講座を開催する。

【事業名：親学習リーダー養成事業】

※ 親(おや)学習(がくしゅう)：子どもの成長とともに親自身がまなび、育っていくこと

親力(おやりよく)：子どもを育て、包み、伸ばす親の総合力

平成 29 年度の重点目標評価					
妥当性	B	効率性	B	有効性	B
平成 29 年度の実施状況及び成果					
☐ 公民館や市民交流センターで、家庭教育支援事業や親学習についての講座等、家庭教育に関する学習機会の提供を行った。 また、新一年生の保護者を対象に、各小学校で子育て学習講座を開催した。					
☐ 小中学校において、将来親となる準備期の児童・生徒を対象に親学習を実施した。					

- ☐ 家庭、地域、学校が連携しながら、家庭の教育力向上、地域の教育力の向上をめざしていくための協議及び活動等を行った。
- ☐ P T Aとの協働により、各小中学校園にて家庭教育講座を実施した。
- ☐ 親学習の推進役となる人材を育成する「南河内地区親学習リーダー養成講座」を実施した。

各事業の実績等

1. 家庭教育・子育て支援事業【継続事業】

(1) 事業の目的

家庭での教育力の向上のため、地域での子育てを支援する。

(2) 平成 29 年度の実績

① P T Aとの協働による家庭教育講座

7 小中学校園において実施 参加者数：1, 7 4 9 名

② 新小学 1 年生の保護者を対象とした「子育て学習」事業

1 0 小学校において実施 参加者数：3 7 1 名

③ 親学習事業

- ・小中学生に対する親学習講座の実施。

小学校 1 4 回

中学校 7 回

- ・その他、市内単位 P T Aや他市の P T A連絡協議会等を対象に計 1 3 回実施。

2. 家庭教育支援推進事業【継続事業】

(1) 事業の目的

社会教育委員会議から提案された「親学・家庭教育支援について～今後取り組んでいくべきこと～」を実施していく。

(2) 平成 29 年度の実績

平成24 年度に社会教育委員会議から提案された「家庭教育支援の今後の方策」の実現にむけて、「親力推進協議会」を発足させ、市民レベルで家庭教育支援に取り組み、家庭や地域の教育力の向上を目指すため、その取り組みを広く市民に周知等行った。

3. 親学習リーダー養成事業【継続事業】

(1) 事業の目的

対話や交流をとおして親のあり方をまなぶ大阪府が作成した教材「『親』をまなぶ・『親』をつたえる」を活用した学習機会の提供を促進するため、地域での学習活動の推進役となる人材を養成するために実施した。

(2) 平成 29 年度の実績

開催日：平成 30 年 2 月 2・16・23 日

場 所：富田林きらめき創造館

当市からの受講者：計 1 名

今後の課題及び次年度以降の取組みについて

- ☐ 子どもたちが親子の関係や親になることについて考える機会を持てるよう、引き続き各学校で親学習講座を実施する。
- ☐ 家庭教育を支援するために、保護者だけでなく、家庭・地域・学校が連携し、「地域の子どもは地域で育てる」という意識を共有できるような取組みを進める。
- ☐ 「親力推進協議会」は、従来から取り組んでいる広報紙の定期的な発行に加え、今後の活動内容を検討する等、家庭や地域の教育力の向上を図る。
- ☐ 「親学習リーダー」について、ファシリテーション(※)能力の向上や子育ての現状の理解等、今後のスキルアップが必要であることから、引き続き「親学習リーダー養成講座」を実施し、親学習をさらに進めていくとともに、活動中の親学習リーダーのスキルアップの機会を提供する。

※ファシリテーション： 発言や参加を促し、話しの流れを整理すること

重点目標 18 地域総ぐるみで子どもを守り育む環境づくり 地域教育推進課

近年、市民の価値観やライフスタイルの多様化、核家族化等の急激な社会変化によって、学校が様々な課題を抱えているとともに、家庭や地域の教育力が低下し、学校に過剰な役割が求められている。このような状況のなかで、これからの教育は、学校だけが役割と責任を負うのではなく、これまで以上に学校、家庭、地域の連携協力のもとで進めていくことが不可欠となっている。

そのため、「開かれた学校」として、学校教育と社会教育（家庭教育を含む）とが相互補完的に協力し合う関係づくりの学社連携、学校教育と社会教育が部分的に重なり合う関係づくりの学社融合の推進・充実に努める。

【平成 29 年度の主な取組み】

1. 学社連携・融合事業の充実

学校教育において、社会教育と連携した教育活動が推進できるよう、各種の教育課程に事業を組み入れ指導助言を行い、社会教育活動を展開する団体等と学校とのコーディネートを行っていく。

【事業名：学校支援地域本部事業】

2. 学校支援地域本部事業の充実

学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てることを目的とした、国が推進する学校支援地域本部事業において、学校を支援する活動をさらに充実させる。

【事業名：学校支援地域本部事業】

3. 子どもの体験活動機会の充実

各地域で、地域住民が中心となって、学校の週休日等に、子どもの様々な体験活動を通して、子どもたちが地域の大人から技術や知識を得るとともに、大人から人生の先輩としての考え方、生活習慣等を学ぶ機会を提供していく。

【事業名：土曜学習事業】

平成 29 年度の重点目標評価					
妥当性	B	効率性	B	有効性	B
平成 29 年度の取組み及び成果					
☐ 楽習室の円滑な実施のため、実施主体である「楽習室実行委員会」への支援を行い、計 6 4 回の楽習室を行った。					
☐ 地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域との連携体制の構築を図り、地域住民が学校支援ボランティアとして活動するための体制を整備した。					
各事業の実績等					
1. 学校支援地域本部事業【継続事業】					
(1) 事業の目的					

学校教育と社会教育（家庭教育を含む）とが相互補完的に協力し合う関係づくりの学社連携、学校教育と社会教育が部分的に重なり合う関係づくりの学社融合の推進・充実を図る。

(2) 平成 29 年度の実績

地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域との連携体制の構築を図り、地域住民が学校支援ボランティアとして活動するための体制を整備した。各中学校区に学校支援地域本部をはじめとする地域住民の交流・活動の拠点づくりを整備することで、「あいさつ運動」「清掃活動」等、学校と地域の連携活動の打ち合わせや、学校支援コーディネーターが学校と地域の窓口としての活動を行う上でより動きやすい環境づくりができた。

また、地域の方々の「読みきかせ」や「昔遊び」等の体験交流活動を行う場として活用する等、「見守り隊」や「学校支援ボランティア」等も含め、地域の方々が様々な活動を通じて学校を支援するための体制が構築された。

2. 土曜学習事業【継続事業】

(1) 事業の目的

学校と家庭・地域社会が連携を深め、互いの教育力を活用しながら、その向上を図っていくため、大人と子どもがともに学ぶ場を提供するための環境づくりを進める。

(2) 平成 29 年度の実績

土曜日を中心に学校の教室や体育館を使って、子どもと大人が共に楽しく学ぶ場を提供する学習室を円滑に実施するための環境づくりや、実施主体である「学習室実行委員会」への支援を行うことにより、「教育コミュニティ」づくりを推進した。

平成 29 年度学習室実施状況

中学校区	活 動 等	開 催 回 数（回）	子ども （人）	大人 （人）	スタッフ （人）	合計 （人）
長野	「ガラス絵の具」ほか 7 活動	8	826	157	273	1,256
西	「どらやき」ほか 7 活動	8	250	33	66	349
東	「吹奏楽体験」ほか 9 活動	10	308	112	88	508
千代田	「地図作り」ほか 9 活動	10	375	88	134	597
加賀田	「餅つき大会」ほか 8 活動	9	355	164	120	639
南花台	「和太鼓」ほか 8 活動	9	395	76	246	717
美加の台	「おはなしポケット」ほか 9 活動	10	626	178	141	945
合 計		64	3,135	808	1,068	5,011

今後の課題及び次年度以降の取組みについて

- ☐ 学校教育と社会教育（家庭・地域教育）の双方のニーズに合った事業をコーディネートし、また、学校を支援する人材の発掘等を行う。

☐ 学校・地域・家庭が連携を深め、互いの教育力を活用しながら、その向上を図るため、大人と子どもがともに学ぶ環境づくりを推進する。

重点目標 19 子育て支援事業の充実

担当：子ども子育て課

家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大といった問題に対して、地域の身近なところできめ細やかな相談体制の充実や、親と子の居場所づくり、地域の子育て環境づくりなど、様々な取り組みが必要であり、行政と地域社会全体で支援ができるよう体制強化を図ることが必要となっている。

地域において子育て親子の交流等を促進し、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、近年の重要課題である虐待の未然防止、早期発見に大きな役割を果たす。

今後は、妊娠・出産期からの切れ目のない支援と、配慮が必要な子どもと家庭への支援をさらに充実させることにより、子どもにとって健やかな育ちを支援するためのよりよい家庭環境を築くこと、そして、地域や子育てを支援する団体等と密接に連携し、協力して子育てを支援する環境作りを進める。

【平成 29 年度の主な取組み】

子ども・子育て総合センターあいつくを中心とした子育て支援の充実

1. 子育て利用者支援事業の充実

個別の子育て家庭のニーズを把握し、適切な施設・事業等を円滑に利用できるように支援する「利用者支援」と利用者支援機能を果たすために、日常的に地域の様々な子育て支援関係者とネットワークを構築し、不足している社会資源の開発をする「地域連携」を実施し、一人一人の子どもが健やかに成長することが出来る地域社会の実現を進める。

【事業名：子育て利用者支援事業】

2. 地域で子育てしやすいまちづくりの推進

市内小学校、中学校、高等学校との連携事業を実施する。さらに、学生ボランティアの育成や活動を推進し、企業や団体と連携していく。ファミリー・サポート・センター事業の普及促進に努める。

【事業名：地域子育て支援事業】

3. 育児講座による親支援の充実

子育ての負担感を軽減し、虐待予防、孤立した子育てを防ぐために家から出てくるきっかけづくりとして、親支援プログラム「BP」「NP」「CSP」(※)を実施する。

【事業名：地域子育て支援事業】

4. 障がいのある子どもへの支援の充実

保育園、幼稚園、認定こども園のニーズを把握し、各園の訪問を実施、個別保育計画立案やサポートブックは一との活用を啓発する中で、子どもの発達状況の見立てや特性理解のための着眼点、具体的な保育方法、評価の方法、関係機関との連携、保護者への支援等を助言提案し、発達支援や保護者支援の更なる充実を図る。

【事業名：幼児健全発達支援事業】

※BP：『親子の絆作りプログラム“赤ちゃんがきた！”』

初めての赤ちゃんを育てている母親が参加者同士で話し合い、育児の知識やスキル・親の役割などを一緒に学び、親子のつながりを深めるプログラム

※NP：『完璧な親なんていない “ノーバディーズ・パーフェクト”』

就学前の子ども保護者それぞれが抱えている悩みや関心事をグループで話し合い、“自分
にあった子育て”を見つけ、自信を持って子育てができるように学ぶプログラム

※ペアレントトレーニング：子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対応を学ぶことで、
より良い親子関係作りと子どもの適応行動を増やすことを目的とした
プログラム

平成 29 年度の重点目標評価					
妥当性	B	効率性	B	有効性	B
平成 29 年度取り組み及び成果					
□ 子ども・子育て総合センターあいつくを中心拠点として、地域とのつながりを大切にしながら、個別の子育て家庭のニーズ把握を行い、きめ細やかな寄り添う支援を通して虐待を未然に防ぎ、家庭の教育力を高める取り組みを行った。 □ 市内小中学校、高等学校のうち、開催希望のあった学校で「いのちはぐくむ交流授業」を実施し、児童、生徒と乳幼児やその保護者とのふれあいを通して命の重みや他者を思いやる気持ちを実感できる機会を提供した。また、学生ボランティアをはじめとするボランティア活動の場の提供やボランティア講師、他機関との共催事業として育児講座を開催することにより、あいつくが地域支援者の活動の場となる役割を果たした。 □ 配慮の必要な親子に対しては、「子育て」できる環境を整えるため、就園（学）先と確かな情報を共有しながらサポートブックは一と活用の啓発を行い、地域の社会資源とつながる「親育ち」を促進し、「家庭の力」を付けていくために継続した支援を実施した。					
各事業の実績等					
1. 子育て利用者支援事業【継続事業】					
(1) 事業の目的 子育て利用者支援事業の充実を目的とする。					
(2) 平成 29 年度の実績 子育て利用者支援事業の充実 ・子育て利用者支援対象数 116 件 相談総数 477 件 ・地域資源との情報交換等 5 回 (地域支援者交流会、ファミサポ講習会、ほのぼのルーム大矢船での入園相談会、障がい者自立支援協議会子ども部会、観心寺保育園育児支援推進会議)					
2. 地域子育て支援事業【継続事業】					
(1) 事業の目的 地域子育て支援者の育成と関係機関との連携の充実・拡充及び育児講座による親支援の充実					

を目的とする。

(2) 平成 29 年度の実績

① 地域子育て支援者の育成と関係機関との連携の充実・拡充

(i) いのちはぐくむ交流授業

- ・市立小学校 2 校（4 クラス：合計生徒数 1 1 1 名）
- ・市立中学校 4 校（1 3 クラス：合計生徒数 4 6 2 名）
- ・府立長野高校国際科（2 クラス：生徒数 7 9 名）
- ・参加協力の親子数（大人 2 1 6 人・子ども 2 3 8 人）

(ii) ボランティア活動の場の提供やボランティア講師

- ・学生ボランティア 登録者数 12 人（述べ活動回数 16 日 41 人）
- ・一般ボランティア登録人数 44 人
- ・ボランティア活動内容 年間活動回数 82 回、述べ活動人数 352 人

② 育児講座による親支援の充実

- ・ N P（ノーバディーズパーフェクトプログラム） 年 1 回（1 クール 8 回／10 家庭）
 - ・ B P（親子の絆づくりプログラム） 年 8 回（1 クール 4 回／合計参加家庭数 79 家庭）
- 上記以外の育児講座開催回数 年 28 回（のべ参加者数 大人 521 人 子ども 361 人）

3. 幼児健全発達支援事業【継続事業】

(1) 事業の目的

障がいのある子どもへの支援の充実を目的とする。

(2) 平成 29 年度の実績

障がいのある子どもへの支援の充実

- ・園訪問相談支援実施回数 152 回
- ・は一との会実績 保護者向け 9 回（参加者数 63 名）
実践報告会 1 回
- ・支援者研修会 4 回（参加者数 158 名）
- ・電話相談 80 回／個別来室相談 180 回／家庭訪問 1 回
- ・ペアレントトレーニング 年 2 回実施（1 クール 5 回／合計参加家庭数 11 家庭）

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- 今後は、妊娠・出産期から切れ目のない支援と配慮が必要な子どもと家庭への支援の充実のために、市内の子育てにかかわる機関の担当者が顔の見える連携を行い、スムーズな利用支援へとつなげるシステムづくりを行うことが課題である。そのため、子ども・子育て総合センターあいつくが拠点となり、取りまとめの役割を果たしていく。

重点目標 20 安全・安心な学校施設の維持・充実

担当：教育総務課

学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、豊かな人間性を育むための教育環境として重要な役割を果たしている。また、災害時には避難所になるとともに、今後は余裕教室などを地域コミュニティや地域の人々の学びの場としての活用なども期待されることから検討を進めていく予定であるが、学校施設のほとんどが、建築後 30 年を超え、老朽化もすすんできている。

そのため、児童生徒をはじめ、学校を利用するすべての人々にとって、学校が安全で安心な施設として機能するように、耐震対策や長寿命化および危機管理の充実等の学校施設の維持・充実に取り組む。

【平成 29 年度の主な取組み】

1. 学校施設の非構造部材の耐震化の推進

学校施設の非構造部材(窓ガラス、外壁材等)については、地震による飛散・落下等を防止し、児童生徒等の安全を確保するため、平成 27 年度より、全小中学校施設の非構造部材の耐震対策工事を計画的に進めている。

今年度については、全市立中学校 7 校の校舎の耐震対策工事を実施する。

【事業名：中学校大規模改造事業】

2. 学校施設の空調設備整備の推進

学校施設の普通教室に空調設備を整備することにより、良好な教育環境の確保を図る。

今年度については、全市立中学校 7 校の普通教室に空調設備を設置するための設計業務を実施する。

【事業名：中学校施設設備改善事業】

3. 学校施設の老朽改修の推進

経年による学校建物の損耗や機能低下に対する復旧措置を講じ、学校教育の円滑な実施に資するとともに、建物の耐久性の確保を図るため、学校施設の老朽改修工事を計画的に進めている。

今年度については、小山田小学校における校舎の内装・外壁・防水改修工事を実施する。

【事業名：小学校施設設備改善事業】

4. 学校施設のトイレ等の機能別整備の推進

学校建設時に設置され、老朽化が進む学校のトイレについて、機能の改善と環境の向上をめざし、計画的にトイレの洋式化を実施する。

今年度については、石仏小学校、楠小学校、美加の台小学校、加賀田中学校、南花台中学校のトイレ整備工事を実施する。

【事業名：小学校施設設備改善事業、中学校施設設備改善事業】

5. 小学校校門の安全管理の推進

児童の登下校の時間帯に合わせて、全小学校の校門に学校環境管理員を配置し、学校への不審者等の進入の抑制に努める。

また、学校環境管理員不在時には、校門に設置したカメラ付きインターホン及び電子錠により、

職員が来校者の確認を行い、不審者の侵入を抑制する。

【事業名：学校運営管理事業（小）】

平成 29 年度の重点目標評価					
妥当性	B	効率性	B	有効性	B
平成 29 年度の取り組み及び成果					
□ 非常災害時には地域住民の避難所としての役割も果たすことから、学校施設の非構造部材(窓ガラスの飛散防止や外壁材の落下防止など)についても、計画的な耐震対策を進めるため、平成 29 年度は、全市立中学校 7 校の校舎について、耐震対策工事を実施した。					
各事業の実績等					
1. 中学校大規模改造事業【継続事業】					
(1) 事業の目的					
経年により通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置及び建物の用途変更に伴う改装等の大規模改造を促進することにより、教育環境の改善を図り、学校教育の円滑な実施に資するとともにあわせて建物の耐久性を図ることを目的とする。					
平成 29 年度は対象となる中学校施設の校舎の一部において非構造部材の耐震対策工事を実施し、教育環境の改善を図る。					
(2) 平成 29 年度の実績					
① 中学校大規模改造工事（非構造部材耐震対策）					
平成 29 年度は下記のとおり非構造部材耐震対策工事を実施した。					
工 事 名	工事請負費	工事契約日 工事着手日 工事竣工日	監理委託料	備 考	
市立西中学校外 3 校 非構造部材耐震対策工事	23,129,280 円	平成 29 年 6 月 9 日 平成 29 年 6 月 12 日 平成 29 年 9 月 29 日	-	長野中学校 東中学校 千代田中学校 西中学校	
市立加賀田中学校外 2 校 非構造部材耐震対策工事	17,345,880 円	平成 29 年 6 月 9 日 平成 29 年 6 月 12 日 平成 29 年 9 月 15 日	-	加賀田中学校 南花台中学校 美加の台中学校	
2. 小学校、中学校施設設備改善事業【継続事業】					
(1) 事業の目的					
経年により通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置及び建物の用途変更に伴う改装等で施設の質的整備を促進することにより、教育環境の改善を図り、学校教育の円滑な実施に資するとともにあわせて建物の耐久性の確保を図ることを目的とする。					
平成 29 年度は小山田小学校の老朽改修工事、及び楠小学校、石仏小学校、美加の台小学校、加賀田中学校、南花台中学校のトイレ整備工事の実施、また平成 30 年度に工事予定の三日市					

小学校の老朽改修工事の設計業務、及び千代田小学校、川上小学校、美加の台中学校のトイレ整備工事の設計業務を債務負担行為にて実施する。

(2) 平成 29 年度の実績

① 小学校施設設備改善工事（老朽改修）

平成 29 年度は下記のとおり老朽改修工事を実施した。

工 事 名	工事請負費	工事契約日 工事着手日 工事竣工日	監理委託料	備 考
市立小山田小学校校舎 (第 1-4 棟外) 施設設備改善等工事	95,724,720 円	平成 29 年 5 月 17 日 平成 29 年 5 月 18 日 平成 29 年 11 月 17 日	2,548,800 円	小山田小学校

② 小中学校施設設備改善工事（トイレ整備）

平成 29 年度は下記のとおりトイレ整備工事を実施した。

業 務 名	契約金額	工事契約日 工事着手日 工事竣工日	監理委託料	備 考
市立楠小学校 トイレ整備工事	33,625,800 円	平成 29 年 6 月 6 日 平成 29 年 6 月 7 日 平成 29 年 9 月 29 日	-	楠小学校
市立石仏小学校外 1 校 トイレ整備工事	60,190,560 円	平成 29 年 6 月 7 日 平成 29 年 6 月 8 日 平成 29 年 9 月 29 日	-	石仏小学校 美加の台小学校
市立加賀田中学校外 1 校 トイレ整備工事	66,102,480 円	平成 29 年 6 月 8 日 平成 29 年 6 月 9 日 平成 29 年 9 月 29 日	-	加賀田中学校 南花台中学校

③ 小中学校設計業務委託

平成 29 年度は下記のとおり老朽改修工事とトイレ整備工事の設計業務を実施した。

業 務 名	契約金額	業務契約日	業務着手日 業務完了日	備 考
市立三日市小学校校舎 (第 17-1 棟外) 施設設備改善工事 設計業務	4,592,160 円	平成 29 年 7 月 13 日	平成 29 年 7 月 14 日 平成 30 年 4 月 27 日	三日市小学校 【債務負担行為として平成 30 年度予算にて実施】
市立千代田小学校外 2 校 トイレ整備工事設計業務	3,291,840 円	平成 29 年 8 月 7 日	平成 29 年 8 月 8 日 平成 30 年 4 月 27 日	千代田小学校 川上小学校 美加の台中学校 【債務負担行為として平成 30 年度予算にて実施】

市立中学校空調設備整備 工事設計業務	27,000,000 円	平成 29 年 7 月 14 日	平成 29 年 7 月 18 日 平成 30 年 4 月 27 日	市立中学校 7 校 【債務負担行為とし て平成 30 年度予算に て実施】
-----------------------	--------------	------------------	--------------------------------------	--

3. 学校運営管理事業【継続事業】

(1) 事業の目的

全市立小学校の児童の安全を確保し、安全安心な学校環境とするため、学校環境管理員を登下校時の小学校校門に配置するとともに、カメラ、インターホンと電気錠を組み合わせ、学校の安全管理を推進する。

(2) 平成 29 年度の実績

河内長野市シルバー人材センター、長野総合スポーツクラブへ委託する学校環境管理員を登下校時の全市立小学校校門に配置し、各校における児童の安全確保に努めた。

委託料 8,573,300 円

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 学校施設の施設設備改善工事については、平成 30 年度に、三日市小学校、千代田小学校、川上小学校、美加の台中学校について学校施設の老朽化に対する整備やトイレの洋式化を実施し、教育環境の改善等を図る。また平成 31 年度に整備対象となる三日市小学校(第 2 期)、市立小学校全 13 校について、学校施設の老朽化に対する整備や空調設備整備工事の設計を行う。
- ☐ 引き続き、全小学校の校門に環境管理員を配置し、学校への不審者等の進入の抑制に努め、環境管理員不在時には、校門に設置したカメラ付きインターホン及び電子錠により、職員が来校者の確認を行い、不審者の侵入を抑制する。

重点目標 21 学校教育を支える教育環境の維持・充実

担当：教育総務課

近年の児童生徒を取り巻く社会環境は大きく変化し、児童生徒一人ひとりが、その変化に対応し、21世紀の情報化社会を生き抜く必要な知識や能力を身に着けることが必要である。

そのため、情報化社会に対応する ICT(※)機器や教育委員会と全小中学校を繋ぐ教育情報ネットワーク、学校図書館システムの安定的な運用などを図り、教育内容の多様化にも対応できる質の高い教育環境の維持・充実に取り組む。

【平成 29 年度の主な取組み】

1. 教育情報ネットワークシステムの運営管理

市教育委員会と市立小中学校 20 校を結ぶ教育情報ネットワークシステムの安定的な運用管理を行う。

また、平成 21 年度に導入した ICT (※) 機器について、校務用・教育用パソコンや書画カメラ等の付属機器等の機能を統合させた、タブレット併用型ノートパソコン等への更新を 3 ヶ年で計画的に実施する。

今年度は、小学校 7 校（千代田小、小山田小、天野小、加賀田小、天見小、川上小、美加の台小）の更新および、小学校のパソコン教室のパソコンの更新を実施する。

【事業名：小学校教育情報化推進事業】

2. 学校図書館の充実

国語力向上の基礎となる読書の重要性をかんがみ、児童生徒の自主的な読書活動の推進のため、各学校の選書に基づき図書を購入し、文部科学省が定める学校図書標準の達成をめざす。

【事業名：小学校図書整備事業、中学校図書整備事業】

3. 学校図書館蔵書管理システムによる蔵書管理

学校図書館の蔵書の効率的・効果的な運用と、児童生徒の読書環境の整備のため、各小中学校の学校図書館蔵書管理システムの安定的な運用管理を行う。

【事業名：小学校図書整備事業、中学校図書整備事業】

※ ICT: Information and Communication Technology (情報通信技術) の略

平成 29 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	B	有効性	B
重点目標 8 の目標達成に ICT 機器の整備が大きく貢献した。					
平成 29 年度の取り組み及び成果					
☐ 各小中学校の ICT 機器の効果的な活用を図るため整備した、教育情報ネットワークの安定的な運用を行った。 また平成 21 年度導入 ICT 機器の更新計画に基づき、第 2 期更新（小学校 7 校）を行った。					

- 児童・生徒の自主的な読書活動を推進し、教育活動での利用に役立てるため、国の設定した「学校図書館図書標準」を目標に、各学校の希望に基づき図書の整備を行い、学校図書館の充実を図った。

各事業の実績等

1. 教育情報化推進事業【継続事業】

(1) 事業の目的

教育情報ネットワークを活用した学校間での情報共有を進め、教育活動の更なる推進を目指し、小中学校 I C T 環境の適切な保守・運用管理を実施する。

(2) 平成 29 年度の実績

① 新たに更新を実施した機器

(i) 平成 21 年度導入 ICT 機器更新計画 第 2 期

平成 21 年度に導入した ICT 機器の更新計画（3 ヶ年：平成 28 年度～平成 30 年度）に基づき、第 2 期対象校（小学校 7 校）へタブレット併用型ノートパソコン(※)を賃貸借により整備した。

内 容	小学校
タブレット併用型ノートパソコン等賃借料 ※ パソコン台数：92 台	4,465,692 円

(ii) 河内長野市教育情報ネットワークシステム

学校間ネットワーク及びセンターサーバの機器の賃貸借により整備した。

内 容	小学校	中学校
河内長野市教育情報ネットワークシステム機器賃借料	1,126,710 円	606,690 円

(iii) 小学校パソコン教室用パソコン等賃貸借

各校のパソコン教室用ノート型パソコン、及び教室で活用する児童用タブレットパソコン、ソフトウェア等を賃貸借にて整備した。

内 容	小学校
パソコン教室用パソコン等賃借料 ※ パソコン台数：770 台	9,277,416 円
パソコン教室用ソフトウェア等賃借料	5,132,160 円

(iv) 校務用パソコン賃貸借

各中学校に校務用パソコン等を、賃貸借により整備した。

内 容	中学校
校務用パソコン賃借料 ※ パソコン台数：35 台	514,944 円

② 継続利用した機器

(i) 平成 21 年度導入 ICT 機器更新計画 第 1 期

平成 21 年度に導入した ICT 機器の更新計画（3 ヶ年：平成 28 年度～平成 30 年度）に基づき、第 1 期対象校（小学校 6 校）へタブレット併用型ノートパソコン(※)を賃貸借により整備した。

内 容	小学校
タブレット併用型ノートパソコン等賃借料 ※ パソコン台数：99 台	8,209,512 円

(ii) 中学校パソコン教室用パソコン等賃貸借

各校のパソコン教室用ノート型パソコン、及び教室で活用する生徒用タブレットパソコ

ンを賃貸借にて整備した。

内 容	中学校
パソコン教室用パソコン等賃借料 ※ パソコン台数：364 台	11,312,784 円

(iii) 校務用パソコン賃貸借

各小中学校に校務用パソコン等を、賃貸借により整備した。

内 容	小学校	中学校
校務用パソコン賃借料 ※ パソコン台数：237 台	5,002,344 円	
事務用パソコン賃借料 ※ パソコン台数：小学校 15 台、中学校 9 台	497,340 円	298,404 円

(iv) 校務支援システム賃貸借

各小中学校へ校務支援システムを、賃貸借により整備した。

内 容	小学校	中学校
校務支援システム賃借料 ※ 市内教職員における学校間でのコミュニケーション活性化等を目的にグループウェアシステムを導入。	871,200 円	435,600 円

※ タブレット併用型ノートパソコン：キーボード部分が着脱可能で、タブレットパソコン、ノートパソコンと使い分けができるパソコン

2. 小学校、中学校図書整備事業【継続事業】

(1) 事業の目的

計画的な図書の購入により、小中学校図書館を充実させ、子どもの読書活動の推進を図る。

また、学校図書館蔵書管理システムの活用により、子どもの読書活動推進環境の充実に努める。

(2) 平成 29 年度の実績

① 市立小中学校図書館図書整備状況

項 目	小学校	中学校
平成 29 年度整備冊数	3,236 冊	4,349 冊
平成 29 年度整備額	4,499,245 円	6,305,534 円
平成 29 年度市立小中学校蔵書数	131,615 冊	86,187 冊
学校図書館図書標準達成率	112.34% (基準冊数 117,160 冊)	111.64% (基準冊数 77,200 冊)
	千代田小 114.60%	長野中 101.00%
	長野小 108.70%	東中 100.40%
	小山田小 111.10%	千代田中 105.50%
	天野小 116.10%	西中 99.40%
	高向小 135.00%	加賀田中 107.50%
	三日市小 103.50%	南花台中 136.40%

	加賀田小	109.20%	美加の台中	154.40%
	天見小	127.50%		
	楠小	102.50%		
	石仏小	111.00%		
	川上小	106.30%		
	美加の台小	104.30%		
	南花台小	130.10%		

② 学校図書館蔵書管理システム

全市立小中学校において、学校図書蔵書管理システムの運用により、児童生徒の読書に対する意欲を活性化させ、自主的な読書活動の推進に取り組んでいる

また、システム導入により、次のような効果の促進向上が図られている。

- (i) 容易な「本の検索」により、児童生徒の読書活動や調べ学習の支援への貢献。
- (ii) 本のバーコードと図書利用カードのバーコードのシステムへの読み込みにより、貸出・返却作業時間の短縮による効率化。
- (iii) システムの貸出・返却履歴データから児童生徒の興味のある情報を把握し、今後の蔵書選択収集時への有効活用等。

蔵書管理システム賃借料

各小中学校へ蔵書管理システムを、賃貸借により整備した。

内 容	小学校	中学校
蔵書管理システム賃借料	909,090 円	489,510 円

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 各学校図書館がより充実するよう、引き続き蔵書管理システムにより適正な蔵書管理を行うとともに、「学校図書館図書標準」を目標に図書を整備し、児童、生徒の読書環境の充実を図る。
 - ☐ 次年度においても、引き続き教育情報ネットワークの安定的な運用を行うとともに、平成 21 年度に導入した ICT 機器の更新計画（3 ヶ年：平成 28 年度～平成 30 年度）を引き続き実施する。
- また、各学校において、多岐にわたるグループウェアの機能を十分に活用できるよう、教育委員会や子ども教育支援センターからの情報発信等を進める。

重点目標 22 文化活動の活性化

担当：文化・スポーツ振興課

市民団体等との連携により、文化事業や文化活動の普及に取り組んでいるが、参加者や年齢層が固定化している傾向が見られる。今後は、より広範な市民が自主的に参加、企画するとともに、「河内長野市第2期文化振興計画」に基づきより多くの市民が文化・芸術活動に接する機会を拡大することによって、心豊かな暮らしづくりに寄与する必要がある。

そのため、小中学校などの教育機関や、河内長野市文化連盟等の各種団体との連携により、市民の自主的な芸術文化活動の発展や地域文化の振興を目指すとともに、小中学生をはじめ、市民だれもが質の高い文化・芸術活動に触れる機会を提供する。

【平成 29 年度の主な取組み】

1. 古典に関する普及啓発事業の充実

郷土を愛する心を醸成し、人や地域とのつながりや絆を強めるため、古典講座や文楽公演を開催し、市民が古典に触れる機会を創出する。

【事業名：文化振興事業】

2. 河内長野市文化祭の展開

市民の日頃の文化活動の発表の場として市民文化祭を開催し、文化活動の振興を図る。

【事業名：文化振興事業】

3. 指定管理者制度による文化振興事業の推進

文化会館の効率的・効果的な管理運営をめざして、指定管理者制度による運営を行う。

また、指定管理者による文化振興事業として、オペラやミュージカル等の舞台芸術事業を開催するとともに、かわちながの世界民族音楽祭などの市民参画型事業を開催する。

なお、事業組換により次年度以降の指定管理者の事業内容を再検討する。

【事業名：文化会館管理運営事業】

4. アウトリーチ事業の拡充

小中学校などにアーティストを派遣するアウトリーチ事業を実施し、文化活動に関する学習機会の充実を図る。

また、福祉関係機関等へのアウトリーチ事業も展開する。

【事業名：文化振興事業】

平成 29 年度の重点目標評価					
	妥当性	B	効率性	B	有効性
B					
平成 29 年度の取り組み及び成果					
☐ 古典の日普及啓発事業「能楽を楽しんでみよう!」「水墨画と気の話」を実施し、84 名の参加者を得た。また、古典芸能鑑賞会「文楽」公演を開催し、757 名の入場者を得た。					
☐ 第 62 回河内長野市文化祭を、市立文化会館等において、10 月 27 日～11 月 6 日の間にて実施し、8,012 名の来場者があった。					
また、河内長野市文化連盟による「夏休み子ども体験教室」等の開催について事業支援を行っ					

た。

- ラブリーホール・オリジナル・ミュージカルや河内長野マイタウンオペラ、市民との協働で「かわちながの世界民族音楽祭」等、各種の主催・共催公演を実施した。

また、施設管理については、適切な管理と保全に努め、快適な設備環境の整備に努めた。

- アーティストを派遣するアウトリーチ事業について、教育分野として、小・中学校 9 校で河内長野市文化連盟の協力も得て実施するとともに、特別養護老人ホーム等 6 施設においても実施した。

また、学校外での取り組みとして、大阪芸術大学との連携による「奥河内エデュケーションプログラム」を実施した。

各事業の実績等

1. 文化振興事業【継続事業】

(1) 事業の目的

各種の文化芸術振興事業を通じて、市民が豊かな文化芸術的環境に身を置き、優れた文化活動に触れることによって、心豊かな市民生活に寄与するために実施する。

(2) 平成 29 年度の実績

① 文化祭事業（事業運営を河内長野市文化連盟に委託）

市民が日頃行っている芸術・芸能・文化活動の成果を一般に公開し、市民文化の創造と振興を図った。

会 期 平成 29 年 10 月 27 日（金）～平成 29 年 11 月 6 日（月）

会 場 市立文化会館、市立市民交流センター他 入場者 8,012 人

内 容 ・菊花展など 21 部門で実施

・体験教室の実施（フラワーデザイン手作りコーナーなど 4 教室）

・古典の日普及啓発事業「能楽を楽しんでみよう！」「水墨画と気の話」を実施。

② 芸術振興事業（事業を河内長野市文化連盟に委託）

優れた伝統文化に触れ、日本の伝統芸能への認識を高め次代に継承していくことを目的として開催した。

日 時 平成 29 年 9 月 23 日（祝） 昼夜 2 公演

会 場 市立文化会館 大ホール、

入場者 757 人（昼 446 人 夜 311 人）

内 容 「文楽公演」昼公演・桂川連理柵、夜公演・曾根崎心中

③ 奥河内アートエデュケーションプログラム事業

奥河内という豊かな自然と芸術・美術の持つ力をコラボレーションさせ、「奥河内」や「教育立市のまち河内長野」の魅力を発信した。

内 容		開催日	会場	参加者数
創作ひろば アートの森	春開催	5月27日(土)・28日(日) 6月3日(土)・4日(日)	滝畑コミュニティ センターほか	60人
	夏開催	8月17日(木)～20日(日)		47人
	秋開催	10月28日(土)・29日(日) 11月4日(土)・5日(日)		32人
奥河内子ども写生大会		7月22日(土)・23日(日)	観心寺	123人
合 計				262人

2. 文化会館管理運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

本市文化活動の拠点である文化会館をその目的に合った効率的・効果的な維持管理・運営を行うことにより、市民の文化芸術活動を推進する。また、文化施設の設備を良好な状態に保ち、施設利用者の快適な環境を維持する。

(2) 平成 29 年度の実績

① 文化振興事業

文化・芸術の香り高いまちづくりを総合的に推進し、市民の豊かな心と個性ある文化活動を育むことを目的として、市立文化会館の指定管理委託に文化振興事業を含めて委託した。

事業数 99、公演数 515、入場者数 55,270 名

主な事業内容は以下のとおり。

- ・地域の芸術文化の振興を図る事業（公益目的事業）
- ・河内長野発の優れた舞台芸術作品を創造し発信する事業（創造発信型事業）
河内長野マイタウンオペラ（6/11）、ラブリーホール・ミュージカル（8/5, 6）等
- ・市民との協働により芸術文化を創造する事業（市民参画型事業）
かわちながの世界民族音楽祭（9/10）、ラブリーハロウィーン in かわちながの（10/9）等
- ・年間を通じて行う長期ワークショップ型事業（教室運営型事業）
（H29 年度末生徒数）ミュージカルスクール（76 名）、ゴスペル教室 Make U s One（42 名）等
- ・地域の芸術家を発掘し育成する事業（芸術家育成型事業）
ロビーコンサート（2 公演）、ラブリーホール新人演奏会（6/30）
- ・多種多様な芸術文化に会う機会を提供する事業（芸術文化普及型事業）
シネマ de ラブリー（毎月 1 映画、各 3 回上映）、カフェ・コンチェルト（4 公演）等
- ・アーティストの派遣を通じて芸術文化に触れる機会を創出する事業（アウトリーチ事業）
小学校 5 校（5 公演）、中学校 4 校（7 公演）、福祉施設 6 施設（6 公演）への派遣
- ・地域の芸術文化活動を多様な角度から支援する事業（芸術文化活動活性化支援事業）
河内長野市文化祭（10/27～11/6）、ラブリーホール市民芸術文化活動助成事業等

② 文化会館管理運営業務

文化をキーワードとする市民の参加、交流、創造活動の拠点として、また文化情報の発信基地として、フレキシブルで効果的な管理・運営をめざし、公益財団法人河内長野市文化振興財団を指定管理者として、管理運営を実施した。

- ・施設の利用許可等に関する業務
- ・施設及び付属設備、その他器具、備品等の維持管理に関する業務等

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 古典普及啓発事業として講座等を開催し、引き続き古典の魅力の普及啓発に努める。
- ☐ 社会環境の変化により生涯学習の必要性が高まっており、より一層市民に広く受け入れられるよう、河内長野市文化連盟をはじめとした各種団体との連携を図りながら事業内容を充実し、裾野を拡大するよう、積極的に推進する。
- ☐ 市民に対して、質の高い文化・芸術にふれる機会を提供することにより、日々の生活を心豊かにし、市民による自主的な文化・芸術の発展を促すことで、地域文化の振興を図る。
- ☐ アウトリーチ事業の内容の充実を図り、多くの市民が芸術や文化にふれる機会を創出するとともに、教育機関や福祉関係施設との連携を強化し、引き続き事業の推進を図る。

重点目標 23 市民のニーズに応じた学びの場や機会の提供と市民の学習活動支援体制の充実

担当：文化・スポーツ振興課

「河内長野市第2次生涯学習推進計画（くろまる生涯学習プラン）」に基づき、河内長野市民大学「くろまる塾」を生涯学習推進の中心として、学びの場や質の充実に取り組んでいる。今後とも、生涯にわたる学びの成果を社会や地域に活かしていくため、学習機会の充実や支援体制の整備が求められている。また同時にファシリテーター(※)能力等を備えた人材の育成や公益市民活動団体・地域活動団体等の既存活動団体との調整・協働による地域力の向上が課題である。

そのため、生涯学習を個人の生きがいや自己実現だけではなく、社会や地域に還元できるよう、まちづくりや行政、団体等との協働を担う人材の育成や支援体制の充実に取り組む。

【平成 29 年度の主な取組み】

1. 河内長野市民大学「くろまる塾」を中心とした生涯学習の推進

市民大学「くろまる塾」を中心に生涯学習の推進に努め、市民が学びを通じて地域社会へ貢献し、まちづくりへ参画する生涯学習社会の実現を目指し、様々な講座等を実施する。

あわせて、生涯学習の推進を図るファシリテーター(※)的な役割を担う人材の育成にも取り組む。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

2. 市民の自主的な学びの場や機会の充実

市民一人ひとりが、自らの意思に基づく学びの場を得られるよう、それぞれのニーズに応じた学びの提供に努めるとともに、学習機会の充実のためのサポートを実施する。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

3. 生涯学習情報の発信強化

学びやんネットや市ホームページなどを通じて、広く生涯学習情報の発信を図り、市民一人ひとりが希望する生涯学習情報を得ることのできる環境を整える。

【事業名：生涯学習情報提供事業】

4. 生涯学習相談体制の整備

市民交流センター指定管理者が運営するくろまる塾事務局と市とが協力し、生涯学習に関する相談窓口としての機能充実を図る。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

5. 多様な活動の場の確保

ボランティアや地域支援活動など、市民が様々な分野にわたって多様な活動を展開できるよう、河内長野市立市民公益活動支援センター「るーぷらざ」等と連携し、活動の場の確保に努める。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

6. 指定管理者制度による生涯学習事業の推進

市民交流センターの効率的・効果的な管理運営をめざして、指定管理者制度による運営を行う。

指定管理者の公益財団法人河内長野市文化振興財団は、文化会館との一括管理による相乗効果を発揮した施設を運営するとともに、文化振興事業で培った能力・人的ネットワークを生かした生涯

学習事業を推進する。

なお、事業組換により次年度以降の指定管理者の事業内容を再検討する。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

※ ファシリテーター：会議やミーティングなど複数の人が集う場において、議事進行を務め、中立な立場を守り、参加者の心の動きや状況を見ながら、プログラムを進行していく人。また、段取り・進行・プログラムをかんがみながら、問題の解決や合意の形成に導く役割をする人。

平成 29 年度の重点目標評価					
妥当性	B	効率性	C	有効性	B
「くろまる塾」での学びの成果を地域での実践につなげていくために、検討の余地があるため事業評価の効率性をC評価とした。今後、地域での課題や問題とくろまる塾学生とのマッチングを促す仕組みづくりを検討するとともに、市民交流センターの効率的効果的な維持・管理運営を行い、利用者が快適に館を利用できるようサービス充実に引き続き務める。					
平成 29 年度の取り組み及び成果					
☐ 河内長野市民大学「くろまる塾」において年間 283 講座におよぶ、多種多様なくろまる塾認定講座を実施し、累計受講者数 8,812 名の参加を得た。 ☐ 大阪千代田短期大学、大阪府立大学、桃山学院大学、大阪大谷大学、高野山大学、大阪芸術大学と連携して講座を開催し、市民に対し、様々な学習の提供を行った。 ☐ 学びやんネットにてインターネットにおける学習情報を提供し、756 件（平成 29 年度末時点）の登録情報を発信した。					
各事業の実績等					
1. 市民交流センター管理運営事業【継続事業】					
(1) 事業の目的					
館の施設維持管理・改善を図り、様々な学習ニーズに応えることができ、利用しやすい施設づくりに努める。館の設備を良好な環境に保ち、館利用者等の快適な環境を維持する。					
(2) 平成 29 年度の実績					
① 市民交流センターの管理運営					
生涯学習の拠点として、また図書館や国際交流・男女共同参画・青少年・勤労市民福祉などの多機能複合施設として、常に良好な状態で機能し利用できるよう指定管理者を通じ維持管理を実施し、多くの市民の利用を得た。					
② 河内長野市民大学「くろまる塾」の充実					
指定管理者にてくろまる塾事務局機能の一部を担い、市とともに継続した講座の実施とさらなる充実を目指し、地域学講座（ボランティア魅力発見講座）、大学連携講座（海洋、法律、健康、福祉、密教、歴史、科学）、教養講座（文化、芸術、歴史）、医療連携講座など多彩な学習機会の提供に努めた。					

・利用状況

ア. くろまる塾生数 1,548 名（平成 29 年度末）

イ. 全講座数 283 講座

くろまる塾本部企画講座 55 講座、その他の認定講座 228 講座

ウ. 累計受講者数 8,812 名

エ. 学位取得者数 累計 83 名

くろまる塾市民博士（600 単位到達者） 37 名（うち本年度到達者 4 名）

くろまる塾市民修士（400 単位到達者） 11 名（うち本年度到達者 4 名）

くろまる塾市民学士（200 単位到達者） 35 名（うち本年度到達者 7 名）

・運営状況

ア. くろまる塾本部企画講座

A. 大学連携講座

大阪千代田短期大学編：全 8 回、大阪府立大学編：全 5 回、桃山学院大学編：全 4 回

大阪大谷大学編：全 4 回、高野山大学編：全 8 回、大阪芸術大学編：全 3 回

B. 教養講座

文化編：全 6 回、芸術編：全 6 回、歴史編：全 5 回

C. その他講座

河内長野地域講座 ボランティア魅力発見講座～すきこそボランティアなれ～

医療連携講座 大阪南医療センター編：全 4 回

学位授与式・特別講演会 第 1 部「河内長野市のまちづくり ～過去・現在・未来～」

第 2 部「真田幸村公 九度山脱出、いざ、大坂城へ！」

イ. 認定講座

市主催の防災まちづくり講座や市民公益活動支援センター（るーぷらざ）が実施するボランティア活動体験プログラム、また市内の NPO 法人が主催している講座等。

2. 生涯学習情支援事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 生涯学習を始める（深める）ためのきっかけづくり。
- ② 学習の成果を社会に活かすためのきっかけづくり。
- ③ 生涯学習に対する正しい理解の普及。

(2) 平成 29 年度の実績

① 刊行物等による生涯学習情報の提供

生涯学習を始めるためのきっかけづくり、学習の成果を社会に活かすための機会の提供、また生涯学習に対する正しい考え方の普及のため、市民に生涯学習情報の情報提供を幅広く行った。

(i) 河内長野市生涯学習情報提供システム「学びやんネット」

登録情報内訳（H29 年度末）

イベント・相談・募集情報	115 件
施設情報	113 件
団体・グループ情報	384 件

講師・ボランティア情報 61 件

刊行物・冊子・ビデオ情報 83 件

(ii) 「河内長野市まちづくり出前講座」の実施

市政への理解を深めるとともに、学習機会の充実及び意識啓発を図り、もって生涯学習によるまちづくりの推進に寄与するため、メニューに基づき河内長野市民の求めに応じて市職員を派遣し、情報提供・事業・施策・制度などを説明する「河内長野市まちづくり出前講座」を実施した。

メニュー数：29 部署 57 メニュー

申込件数：58 件

実施会場：地域の自治会館、公民館、コミュニティセンターなど

受講者：延べ 3,047 人

(iii) 「くろまる塾認定講座一覧表」の配布

くろまる塾認定講座情報の周知のために、2 ヶ月に一度 1,200 部配布し、情報提供に努めた。

(iv) 市民交流センターにおける情報提供

市民交流センター内の情報プラザにおいて、ポスター、チラシ、パンフレット、啓発冊子などの掲示・配架・配布による情報提供を行った。

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 生涯学習社会の推進に向けて、生涯学習推進計画に基づき、今後とも市民に対し生涯学習情報を発信し、学びの機会を提供するとともに、市民が学びの成果を活かしていくことができるような仕組みづくりに継続して取り組んでいく。
- ☐ 学びが地域でのまちづくりに繋がるよう地域や NPO などの各種団体、学校と連携を深め、地域での市民の公益活動・社会活動・福祉活動・ボランティアなどの様々な活動への参加を促すよう努める。
- ☐ 学びやんネットによる生涯学習情報の充実、講座企画の見直しによる人的交流機会の創設や、市民公益活動支援センター「るーぷらざ」等との連携により、各学習グループや人と人との繋がりづくりの支援に努める。
- ☐ 市内における様々な知識・技能を有する人材を発掘し活用するため、学びやんネットの充実や市内での情報共有、「るーぷらざ」等との連携強化に取り組む。

重点目標 24 スポーツ施設の充実と生涯スポーツ活動の推進 担当：文化・スポーツ振興課

スポーツは体力を向上させるだけではなく、他者への尊重や協調性、実践的な思考力や判断力等といった、各種の学習活動面のほか、人や地域の交流など様々な効果が期待できることから、生涯スポーツの振興に努めている。しかし、スポーツ施設の利用者総数は、少子高齢化などの影響により、減少傾向にあることから、その増加対策が求められている。

一方、施設面においては、「河内長野市スポーツ施設整備計画」に基づき機能回復を目的とした整備に取り組んでいるが、老朽化への対応が課題となっている。

そのため、市民だれもが身近な場所で、スポーツを通じた体力向上と健康維持、人々の交流ができる環境づくりに取り組むとともに、手軽に行える体験事業などを通じた普及活動を実施し、機会の提供に取り組む。

また、指定管理者との連携により、施設の効率的な運営と計画的な施設整備を進め、安全に利用しやすい施設運営を行う。

【平成 29 年度の主な取組み】

1. スポーツ普及啓発事業の実施とスポーツ活動の普及・振興

- ① スポーツ活動や体力づくりに取り組むきっかけとなるよう、プロスポーツの観戦やニューススポーツ(※)体験会を実施するなど、市民がスポーツに親しむことができる機会を提供し、スポーツの普及と振興を図る。

※ ニューススポーツ：勝敗にこだわらずレクリエーションの一環として気軽に楽しむことを主眼とした身体運動。

【事業名：スポーツ普及啓発事業・スポーツ振興事業】

- ② 体力の低下が課題とされる小学生を対象に、関係団体が連携・協力して実施する、小学生駅伝大会やロープジャンプ大会、ドッジボール大会等の事業を全面的に支援する。

また、今年度は、日本トップリーグ連携機構の協力により、ボールゲームに親しめるイベントを開催する。

【事業名：スポーツ振興事業】

- ③ 広く市民が自主的に参加できるよう、河内長野シティマラソン大会や南大阪駅伝競走大会等のスポーツ行事を実施し、スポーツの普及啓発と競技水準の向上を図る。

また、地域住民が自主的にスポーツ活動を展開できる場として、学校体育施設の開放を実施する。

さらに、課業中の学校体育館の使用について、モデル事業を実施する。

【事業名：河内長野シティマラソン事業、南河内スポーツ振興事業、学校体育施設開放事業】

2. 下里運動公園の利用促進

平成 28 年 6 月にオープンした下里運動公園の平日の利用促進を図るため、市内・市外の関係団体と連携協力した取組みを実施するとともに、そのPRなど情報発信を実施する。

【事業名：スポーツ振興事業】

3. 既存スポーツ施設の計画的な整備

市民がスポーツ施設を安全に使用できる環境を整備するため、市内スポーツ施設の改修工事や修繕などを実施し、各施設の機能回復を図る。

【事業名：スポーツ施設整備事業、スポーツ施設管理運営事業】

4. 次期生涯スポーツ振興プランの策定

「いつでも だれでも どこでも スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現」等をめざし、平成 13 年度に策定した河内長野市生涯スポーツ振興プランの目標年次が平成 27 年度（2015 年度）で終了したため、2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う国や府の計画に基づき、次期プラン計画を策定する。

【事業名：スポーツ振興事業】

5. スポーツ・ボランティア制度の構築

スポーツ技術の指導やスポーツ事業の広報活動、スポーツ施設の維持管理など、スポーツ活動を推進するスポーツ・ボランティア制度を構築し、市民との協働によるスポーツ振興を図る。

【事業名：スポーツ振興事業】

6. 新指定管理者によるスポーツ施設の円滑な運営

平成 29 年 4 月から本市スポーツ施設の新指定管理者は「河内長野 S S K クリーン工房共同事業体」に変更となる。スポーツ振興事業は、引き続き、河内長野市総合スポーツ振興会に委託するが、指定管理者の変更に伴い、同振興会と綿密に協議・調整の上、円滑に施設運営を移行させるとともに、市・振興会・新指定管理者の 3 者が連携・協力の上、それぞれの役割を明確にし、スポーツ振興を図る。

【事業名：スポーツ施設管理運営事業】

平成 29 年度の重点目標評価

妥当性	B	効率性	B	有効性	C
-----	---	-----	---	-----	---

平成 29 年 9 月まで、（新）大阪府スポーツ推進計画の概要が決定していなかったため、その計画を基本とする本市の次期生涯スポーツ振興プランを策定できなかった。

また、スポーツ・ボランティア制度の中核を担うスポーツ団体会員の高齢化による人材不足等により、制度を構築できなかった。

平成 29 年度の取り組み及び成果

- スポーツ普及啓発事業の実施とスポーツ活動の普及・振興
- ・市民が身近なところでスポーツ活動に取り組めるよう、以下の事業を実施した。
 - ・スポーツを通じての体力づくりやスポーツへの参加機会を提供するため、スポーツ普及啓発事業として、体力測定会、小学生駅伝大会、ノルディックウォーク講習会、ニュースポーツ普及啓発事業、学校におけるスポーツ普及啓発事業を実施した。
 - ・小学生の体力向上やスポーツに対する意識の高揚、スポーツに親しめない子どものスポーツ参加のきっかけづくりのため、J C 杯ドッジボール大会、ロープジャンプ大会に対して支援を行った。

- ③ ノルディックウォーク普及啓発事業
スポーツ推進委員を講師として派遣し、ノルディックウォークの講習会を開催した。
実施回数 7回 参加者 140人
- ④ ニュースポーツ普及啓発事業
スポーツ推進委員を講師として派遣し、キンボールとガラッキーの講習会を開催した。
実施回数 2回 参加者 25人
- ⑤ 第12回J C杯小学生ドッジボール大会
実施日 平成29年11月19日 参加者 399人
- ⑥ 第4回ロープジャンプ大会
実施日 平成30年2月11日 参加者 171人
- ⑦ 学校におけるスポーツ普及啓発活動事業
学校のクラブ活動、授業、特別活動等の教育活動の中で、子どもたちが新しいスポーツに親しむことで運動することの楽しさや大切さを学ぶとともに、スポーツの普及と活動者の自己実現を図ることを目的に、各連盟から学校に指導者を派遣した。
実施校 6校
実施種目数 6種目（バレー、卓球、バドミントン、ヒップホップ、ジャズダンス、スポーツビンゴ）
実施回数 73回 参加者 2,069人

2. スポーツ振興事業【継続事業】

(1) 事業の目的

広く市民等が自主的に参加できるようなスポーツ行事等を実施するとともに、地域におけるスポーツ振興を図るため、市内スポーツ団体への活動支援を行った。

(2) 平成29年度の実績

- ① 市民スポーツ大会の開催（計24種目 参加者総数 7,972人）
バドミントン、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、テニス、バレーボール、ゲートボール、少年軟式野球、ソフトテニス、卓球、軟式野球、剣道、少林寺拳法、居合道、陸上競技、水泳、柔道、ペタンク、グラウンドゴルフ、インディアカ、体操フェスティバル、軽スポーツ、スポンジテニス、バトントワーリング
- ② 大阪府総合体育大会派遣事業（計8種目 総出場者数 381人）
中央大会進出種目 サッカー、バドミントン（一般男子・一般女子2部）、卓球（一般男子・女子）、テニス（一般男子・女子）、剣道
- ③ その他スポーツ振興事業
「河内長野市ラグビーフェスタ」をはじめ、9事業を実施した。

参加者総数 5,008 人

- ・河内長野市ラグビーフェスタ(600 人)
- ・少年少女野球まつり(248 人)
- ・3 市合同市民観戦デー（オリックスバファローズ）の実施(62 人)
- ・J リーグ市民観戦デー（セレッソ大阪）の実施(135 人)
- ・富田林ドリームフェスティバル（プロ野球・ファーム公式戦）への協力(2,683 人)
- ・KAWACHINAGANO Fes（中学生サッカー大会）(800 人)
- ・ボールであそぼう指導者講習会の実施(30 人)
- ・SOMPO ボールゲームフェスタの実施(200 人)
- ・南河内グラウンド・ゴルフ大会(250 人)

3. 河内長野シティマラソン事業【継続事業】

(1) 平成 29 年度の実績

市民スポーツの普及・振興に努めるとともに、参加者の健康体力の増進と親睦を図るため、第 63 回河内長野シティマラソン大会を下記のとおり開催するべく準備しておりましたが、コース上で大雨や台風による土砂災害・道路陥没等による通行止めにより中止した。

4. 南河内スポーツ振興事業【継続事業】

(1) 事業の目的

南河内地区各市町村と連携を図るとともに、広く自主的に参加できるような行事を実施し、広域的なスポーツの振興を推進する。

(2) 平成 29 年度の実績

南河内地区のスポーツ振興に努めるとともに、スポーツ精神の高揚を図るため、南河内地区 6 市 2 町 1 村共催により、第 61 回南大阪駅伝競走大会を開催した。

実施日 平 30 年 2 月 4 日（日）

場 所 P L 本庁内コース（富田林市）

参加者 198 チーム

5. 学校体育施設開放事業【継続事業】

(1) 事業の目的

校区住民の自発的、自主的なスポーツの場を提供し、市民スポーツの振興を図るとともに地域の身近なコミュニケーションづくりに寄与する。

(2) 平成 29 年度の実績

地域住民が自主的にスポーツができる場を提供し、地域スポーツの振興を図るとともに、地域のコミュニケーションづくりのため、学校体育施設（市立小・中学校の運動場及び小学校の体育館）の開放を実施した。

[運動場]

開放実施校 20 校(※一般開放を含む)

開放実施回数 2,889 回（1 回あたり概ね 3 時間）

利用者数 160,163 人

[体育館]

開放実施校 20 校(※一般開放を含む)

開放実施回数 3,473 回（1 回あたり概ね 3 時間）

利用者数 62,916 人

【開放校と開放種目】※登録団体（学校開放運営管理委員会）利用可能種目

種目 学校名	体育館					運動場					
	バドミントン	バレーボール	ミニバスケットボール	武道柔道を除く	健康体操、ヨガ、バントワリ等	サッカー	ソフトボール			キンクベースボール	軽スポーツ等 運動会
							高校生以上男性	高校生以上女性	中学生以下		
長野小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小山田小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三田市小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川上小学校	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
天見小学校	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○
千代田小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
楠小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
天野小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高向小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
加賀田小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石仏小学校	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
南花台小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
美加の台小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長野中学校						○	○	○	○	○	○
東中学校						×	○	○	○	○	○
千代田中学校						○	×	×	○	○	○
西中学校						○	○	○	○	○	○
加賀田中学校						○	○	○	○	○	○
南花台中学校						○	○	○	○	○	○
美加の台中学校						○	○	○	○	○	○

6. スポーツ施設整備事業【継続事業】

(1) 事業の目的

市民が手軽に身近でスポーツに親しむことができるよう、市民ニーズへの対応としてスポーツ施設の改修等を行った。

(2) 平成 29 年度の実績

① 除草シート設置業務

下里運動公園の道路側法面に、除草シートを設置した。

② 下里総合運動場フェンス改修工事

下里総合運動場の川側フェンスの改修工事を行った。

③ 赤峰市民広場健康遊具設置工事

長寿ふれあい基金を活用し、赤峰市民広場トリムコースに健康遊具を 8 基（マッサージベンチ・ジワジワ前屈・スプリングバー・ストレッチフープ・背のばしベンチ・パラレルハンガー・腹筋ベンチ・ツイストスツール）設置した。

7. スポーツ施設管理運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

市民が身近にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の運営管理に指定管理者制度を導入し、施設利用者の利便性の向上を行った。

(2) 平成 29 年度の実績

① 施設利用状況

スポーツ施設を安全に使用できるよう施設の維持管理を行い、スポーツ環境の整備に努めた。

単位：人

施 設		利用人数	施 設		利用人数
市民総合体育館 (競技場・第2競技場・会議室・卓球場・トレーニング室)		134,733	寺ヶ池公園野球場		13,863
			天野少年球技場		23,020
			武道館		19,498
運 動 場	大師総合運動場	68,193	庭 球 場	寺ヶ池公園庭球場	31,591
	下里総合運動場	39,278		大師庭球場	13,979
	下里人工芝球技場	90,873		荘園庭球場	13,599
	赤峰市民広場 (野外ステージ・控室・会議室・研修室)	129,679	プ ー ル	寺ヶ池公園プール	12,649
キ ャ ン プ ー ス	赤峰市民広場	937	合 計		592,560
	岩湧野外活動広場	668			

② オーパス・スポーツ施設情報システム利用状況（メディア別）

オーパス・スポーツ施設情報システムを引き続き運用し、スポーツ施設の運営を円滑にするとともに、利用手続きの簡素化・迅速化により、サービスの向上を図った。

メディア別	音 声	街頭端末	インターネット	携帯ウェブ	業務端末	合 計
利用件数	1,273	65	44,520	784	6,401	53,043
構成比(%)	2.40	0.12	83.93	1.48	12.07	100.0

③ 市民スポーツ教室開催事業

トレーニング講習会（実施回数 23 回、受講者数 618 人）

市民総合体育館トレーニング室の安全かつ効果的な利用を図るため、講習会を開催した。新指定管理者によりトレーニング器具の入替えを行った。

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 総合型地域スポーツクラブと連携しクラブの活動の充実を行うとともに、学校体育施設開放事業の整備を促進するなど、市民が気軽にスポーツを行う場の環境づくりを進め、地域スポーツの振興を図ることが引き続き今後の課題である。
- ☐ 市民の競技スポーツ志向の低下に伴うスポーツ人口の減少が見られるため、「競う」意識の高揚が課題である。市総合スポーツ振興会と協議や連携を行い、引き続きスポーツ事業を開催し、小学生駅伝大会やシティマラソン大会の事業の充実を図る。
- ☐ 「オーパス・スポーツ施設情報システム」を引き続き運営し、市民がいつでもどこからでもスポーツ施設の利用手続きを行うことができる効率的な環境を継続する。
- ☐ 市内各スポーツ施設の老朽化が進行している中、計画に基づき順次整備を進める必要が生じて

いるものの、実施には多額の予算が伴い、当初の計画通りの補修や整備が困難な状況であるため、今後、整備計画の見直しを図る必要がある。平成 28 年 6 月にオープンした下里運動公園については、円滑な管理運営などの環境整備に取り組む。

また、指定管理者職員の研修などの実施により、来場者受付などの施設管理面における市民サービスの更なる充実を図る。あわせて、担当職員においても研修などの参加により、施設管理運営知識・技術の向上を図る。

重点目標 2 5 社会教育の推進

担当：文化・スポーツ振興課

人口減少、核家族化などによる地域活動の担い手の減少や地域のつながりが希薄化するなど、今日、個人や地域が抱える課題が多様化・複雑化している。このことから地域の様々な課題解決に向けて、一人ひとりが能動的に行動し協働による地域づくりが可能となる学習が求められてきている。

そのため、特に、地域コミュニティ、安全・安心などの分野を重点課題とし、現代的課題に対応した学習機会を積極的に提供する。また、社会教育を推進する公民館は地域活動の中核施設として、地域の課題を的確に把握し、関係団体や市民と連携協力しながら、地域活動の担い手への支援及びその成果の活用の機会を継続して提供する。

【平成 29 年度の主な取り組み】

1. 社会教育の推進

人権、地域コミュニティ、家庭教育・子育て支援、高齢者の生きがいづくり支援、安全・安心、伝統文化・郷土歴史を現代的課題の重点課題とし、市民が公民館等で学習できる機会を充実すると共に、学んだ成果を活用する場としての公民館を推進する。

また、公民館において子どもが様々な体験をできる講座や教室を開催し、子どもの体験活動を充実させる。子どもから大人までが集える地域の拠点づくりを進める。

【事業名：公民館管理運営事業】

2. 社会教育委員会及び公民館運営審議会の開催

地域住民の学習ニーズを適切に把握し、それを社会教育事業に展開していくため、また、地域住民の組織的な教育活動と実施主体との連携・協働を図るため、教育委員会の諮問に応じるなど、社会教育委員会及び公民館運営審議会を開催する。

【事業名：社会教育委員会事業】

平成 29 年度の重点目標評価					
妥当性	B	効率性	B	有効性	B
平成 29 年度の取り組み及び成果					
☐ 地域にある社会教育施設である公民館が、単独で事業を企画・実施するだけではなく、地域の諸団体や小中学校と連携し、地域課題に関する講座等を開催した。					
☐ 公民館施設の貸出により、市民によるクラブや団体の自主的学習活動の場を提供し、活動の支援を行った。					
☐ 本市における社会教育の振興方策等について、広く市民の意見を反映するため、社会教育委員会及び公民館運営審議会を開催した。					
各事業の実績等					
1. 公民館主催事業【継続事業】					
(1) 事業の目的					
急激な社会の変化やその時々課題を、市民自らが認識をもって解決することができるよう、社会教育の視点から市民への学習及び啓発の機会を提供し、地域の教育力の向上を図るために、					

公民館等において主催事業の企画実施等を行なう。

(2) 平成 29 年度の実績

公民館が、地域での学習拠点となるように、各地域の課題について考える講座を実施するとともに、地域住民を講師にむかえた講座や小学校への「出前講座」を実施した。

公民館主催事業状況

上段：講座数（単位：講座数）、下段：参加者数（単位：人）

館 名	川上	加賀田	高向	千代田	三日市	天見	天野	南花台	合計
①人権事業	0 0	3 135	1 19	1 240	2 116	0 0	1 13	0 0	8 523
②地域コミュニティ事業	14 195	12 145	8 146	4 44	7 124	8 48	11 112	13 215	77 1,029
③-1 親学習・家庭教育事業	2 77	4 65	1 30	7 428	3 252	0 0	3 55	6 358	26 1,265
③-2 子ども対象事業（通年分）	1 160	2 525	2 442	2 244	1 380	1 118	2 246	1 62	12 2,177
③-3 子ども対象事業（長期休み・休日）	3 47	3 51	2 53	4 88	3 41	5 54	3 69	2 31	25 434
④高齢者の生きがいづくり支援事業	5 71	2 27	1 40	2 208	1 26	1 12	2 32	2 57	16 473
⑤安全・安心事業	0 0	2 30	1 37	1 58	1 41	1 14	1 22	1 11	8 213
⑥伝統文化・郷土歴史事業	1 51	3 128	4 126	2 70	0 0	3 49	2 45	3 104	18 573
合計	26 601	31 1,106	20 893	23 1,380	18 980	19 295	25 594	28 838	190 6,687

2. 社会教育委員会議事業【継続事業】

(1) 事業の目的

本市の社会教育施策に関して、市民の意見等を反映するため社会教育委員会議及び公民館運営審議会を開催する。

(2) 平成 29 年度の実績

本市における社会教育の振興方策等について、広く市民の意見を反映するため、社会教育委員会議及び公民館運営審議会を開催した。

＜社会教育委員会及び公民館運営審議会委員活動状況＞

活動日		議案等	備考
6月	30日（金）	・ 青少年の社会参画を推進するための教育施策について（答申） ・ 河内長野市教育大綱・平成29年度河内長野市教育推進プランについて	全体会議
9月	4日（月）	・ 公民館の取り組みについて	全体会議
9月	7日（木）	近畿地区社会教育研究大会（京都大会）	研修
11月	2日（火）	中河内・南河内地区社会教育委員研究協議会	研修
11月	9日（木）	・ 平成30年度包括予算の状況について （社会教育三施設の管理運営の変更について）	全体会議
2月	22日（木）	大阪府社会教育研究会議	研修
2月	26日（月）	・ 河内長野市学校教育のあり方に関する答申について ・ 平成30年度予算について ・ 平成30年度河内長野市教育推進プラン（案）について	全体会議

3. 公民館施設管理運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

市民の生涯学習活動支援のための貸館業務及び主催事業の企画運営を行う。また、地域住民へ図書を貸し出すため、図書室の運営を行う。

(2) 平成29年度の実績

① 公民館利用状況（団体区分別）

館名	川上	加賀田	高向	千代田	三日市	天見	天野	南花台	合計	前年度合計
公民館主催クラブ	4,382	8,515	7,965	26,903	16,070	2,988	4,326	7,023	78,172	80,572
公民館登録団体	1,686	0	0	5,580	3,083	0	782	2,717	13,848	14,773
一般団体	2,173	1,585	1,210	7,130	4,181	1,270	1,308	1,453	20,310	20,625
青少年団体	0	0	0	204	39	0	0	0	243	343
高齢者団体	0	0	0	0	91	0	0	0	91	93
女性団体	0	0	0	0	0	0	0	228	228	242
市関係	1,937	2,008	3,178	5,844	2,567	999	1,366	1,695	19,594	19,045
その他団体	0	157	176	51	0	0	0	0	384	559
個人	4,729	7,148	4,421	14,140	10,932	2,921	3,478	19,029	66,798	69,304
合計	14,907	19,413	16,950	59,852	36,963	8,178	11,260	32,145	199,668	205,556

② 公民館男女別利用人数

館 名	川上	加賀田	高向	千代田	三日市	天見	天野	南花台	合計	前年度 合計
男 性	6,057	6,868	4,531	14,856	10,552	2,370	2,762	11,452	59,448	59,365
女 性	8,850	12,545	12,419	44,996	26,411	5,808	8,498	20,693	140,220	146,191
合 計	14,907	19,413	16,950	59,852	36,963	8,178	11,260	32,145	199,668	205,556

③ 公民館図書室利用状況

館 名	川上	加賀田	高向	千代田	三日市	天見	天野	南花台	合計	前年度 合計
入 室 者 数 (人)	4,729	6,951	4,325	14,140	10,932	2,900	3,462	19,029	66,468	69,058
新規登録者数 (人)	13	84	23	104	51	9	23	79	386	410
貸 出 人 数 (人)	2,569	4,209	2,814	9,560	7,097	1,516	1,346	12,722	41,833	42,741
貸 出 冊 数 (冊)	7,925	10,227	6,852	22,150	17,065	4,100	2,849	32,419	103,587	106,608
返 却 冊 数 (冊)	8,058	10,763	7,356	18,415	13,292	4,431	2,730	35,190	100,235	104,017

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 地域の諸団体と連携する地域課題に関する講座等の開催に関しては、課題の抽出や調整等が難しい場合があったが、今後も市民ニーズや地域のニーズを的確に把握し、地域の課題解決のための事業を積極的に実施する。
- ☐ 公民館施設をより効果的・効率的に運営するためには、事業への参加や施設の利用にあたって、今まで以上に新規の参加者等を増加させる工夫が必要である。
- ☐ 公民館の利用が活発になるよう、ホームページや公民館だよりなどをおして、公民館の利用方法や活動内容などの広報をさらに積極的に行う。

重点目標 26 子どもたちや市民の読書活動の推進

担当：図書館、教育指導課

読書は、豊かな人間性を育む上で非常に有効であり、継続的な読書活動の推進や、その楽しさを子どもたちに伝えるための持続的な取り組みが求められている。また、市民の読書活動を推進する上で不可欠な市民ボランティアが高齢化し、減少傾向にあることから、後継者の養成が課題となっている。

そのため、図書館では「河内長野市第3次子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちをとりまく関係機関や地域との連携を図りながら、読書環境の醸成などに取り組む。また、市民ぐるみの読書活動を推進するため、ボランティアの養成を図るほか、地域の人材を活用した講座の開催や読書機会の拡大を進める。

また、学校教育においては、昨今、様々な情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化、さらには幼児期からの読書習慣の少なさなどによる、子どもの読書離れ、活字離れが問題となっている。しかし、読書体験は、子どもの言葉や感性を育み、表現力や想像力を豊かにし、人間関係を築いていく上で大切なコミュニケーション能力を高めるために必要であり、幼い時期から本に親しむことで、様々なことを学ぶことができ、心豊かに成長していく。

そのため、教育指導課では、「河内長野市第3次子ども読書活動推進計画」に基づき、小中学校での、読書週間や朝の読書の推進を図るとともに、全校に配置された学校図書館司書を中心に、市立図書館や地域のボランティア等と連携しながら、読み聞かせ、本の選書等の児童生徒のサポートや環境整備を図るなど子どもたちの読書活動の推進を図る。

【平成 29 年度の主な取組み】図書館

1. 第3次子ども読書活動推進計画の推進

平成28年4月からスタートする「第3次子ども読書活動推進計画」に基づき、学校、幼稚園、保育所、認定子ども園、保健センター、子ども・子育て総合センター「あいっく」や放課後児童会などに団体貸出を積極的に行うなど、子どもの読書環境に関わる各機関やボランティアと連携しながら、子どもたちに読書の楽しさを伝える環境づくりをより一層推進するとともに子どもたちの読書格差の解消に努める。

【事業名：読書振興事業】

2. 地域や市民との連携による読書活動の推進

図書館と協働して地域や学校での読書推進を担う人材を育成するためにボランティア講座を開催する。また、ボランティア団体に対して活動支援を行うとともに読書推進に関する本市の様々な取り組みにおいて、地域の人材の活用を図る。

【事業名：図書館ボランティア活動推進事業】

3. 図書館資料の活用・促進

生活に役立つ図書館講座、郷土の歴史や文化に触れる講座など各種講座を実施、あわせて出前貸出により一層の図書館資料の活用を図る。

また、行政事務支援の一環として講座などのテーマに沿ったブックリストを作成・配布することで、市民が図書館資料を活用し、さらに学習を深める機会を充実する。

【事業名：図書館内サービス事業】

【平成 29 年度の主な取組み】教育指導課

1. 読書週間や朝の読書の推進

「河内長野市第 3 次子ども読書活動推進計画」に基づいて、各小中学校において、読書週間の設定や朝の読書の実施、読書ノートを活用し、子どもの読書活動の推進を図る。

【事業名：学校図書館事業】

2. 読書活動のサポートや環境整備の実施

学校図書館司書を全校に配置し、教員やボランティア、市立図書館等と連携し、児童生徒の読書活動を支援する環境整備に努める。

また、読み聞かせやおためし読書、本の選定サポートなどに取り組み、児童生徒の読書活動の充実を図る。

【事業名：国語力向上事業】

平成 29 年度の重点目標評価					
【担当：図書館】					
妥当性	B	効率性	B	有効性	B
【担当：教育指導課】					
妥当性	B	効率性	B	有効性	B
平成 29 年度の取り組み及び成果					
【担当：図書館】					
☐ 「河内長野市第 3 次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境に関わる市内の各機関・団体・ボランティアとの連携を図った。放課後児童会等各団体への配送による積極的な貸出を行ったほか、市内の公立中学校で実施している中学 1 年生に向けた図書室オリエンテーションにて図書館利用者カードの登録を進めるなど、多様な機会をとらえて子どもたちへの読書推進の働きかけを行った。					
☐ 読み聞かせボランティアと協働して、健康推進課が実施している 4 か月児健康診査の対象者に向けた「ようこそえほんといっしょ」、幼児や小学生に向けたおはなし会、「えほんのひろば」等を実施した。また、読み聞かせなどに関わる技術・知識を高める講座を実施し、さらなるスキルアップに向けたサポートを行った。この他、対面朗読等のボランティア、ガイドヘルパー、図書館職員を対象に「知的障がいの方のための読書支援サポート講座」を開催し、障がいのある方への読書環境の充実を図るとともに、音訳、対面朗読やさわる絵本を制作するボランティアとの情報交換や活動のサポートにも取り組んだ。					
☐ 老後の資金や英語多読といった高齢化・国際化に即したテーマから、古文書や郷土資料を用いた歴史講座まで図書館資料を活用した講座を実施するとともに、関連図書の展示や講座会場での出前貸出にも取り組み、掘り下げた学びができる生涯学習環境の整備に努めた。また、くろまる塾本部講座とも連携して、講座のテーマに即した展示や会場での出前貸出も積極的に実施し、図書館資料の一層の活用を進めることで、市民に多様な情報を提供することができた。					
【担当：教育指導課】					
☐ 河内長野市第 3 次子ども読書活動推進計画」に基づき、各小中学校において、読書週間の設定や朝の読書の実施、読書ノートを活用し、子どもの読書活動の推進を図った。その結果、本市の					

小中学生の読書量が増加し、市立小中学校の図書室の貸出冊数は全国平均を上回った。

- 学校図書館司書を全校に配置し、季節やイベントに合わせた図書の展示を実施したり、夏選書や先生のおすすめ本紹介、卒業選書を作成したりして、子どもたちが様々な本に興味・関心を持つよう環境整備を行った。さらに、教員やボランティアと協力して、学校図書室の利用時間拡大を図るなど、児童生徒の読書活動を支援する環境整備に努めた。また、市立図書館等と連携し、児童生徒が調べ学習等で必要としている本を集団貸出で借りてきたり、情報交換によって国語の学習内容や児童生徒のニーズを共有したりするなどして、教科や総合的な学習の時間等において、探求的な調べ学習を積極的に実施するとともにその発表を通じて、児童生徒の国語力の向上につなげることができた。

各事業の実績等

【担当：図書館】

1. 読書振興事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 講座や講演を通して市民に読書の楽しさを知ってもらう。
- ② 図書館になじみのない人にも足を運んでもらう機会をつくる。

(2) 平成 29 年度の実績

- ① 図書館歴史講座「知られざる河内長野の歴史」(全2回)(参加人数：延べ177人)・「古文書講座」(全6回)(参加人数：延べ406人)

図書館で所蔵する市史編修の際に使用した郷土資料の古文書を活用しての古文書講座を開催した。その他、本市の歴史を学ぶ講座も開催した。

- ② 「生活に役立つ図書館講座」(計4回)(参加人数：延べ114人)

「英語多読入門」と題した講座を開催したほか、近畿財務局と共催して「現役世代からの一生困らない老後資金設計講座」、日本政策金融公庫と共催して創業・教育費に関する講座を実施し、関連図書の展示を行うなど、生活に役立つ情報を提供した。

- ③ 「三市図書館連携講座」(全2回)(参加人数：延べ129人)

広域相互利用協定を結ぶ富田林市立図書館・大阪狭山市立図書館との連携・利用促進を図るため、「もっと知りたい！ちょっと昔の南河内を訪ねて」をテーマに、明治から昭和にかけての河内長野の温泉や、小説に描かれた富田林と南河内などについて学ぶ講座を共催した。(※大阪狭山市立図書館が会場の回は台風により中止。)

- ④ 子ども読書の日「おはなしウォッチング」・読書週間「おはなしウォッチング」(参加人数：延べ119人)

「おはなしのへや」を外から見えるようにして子どもも大人もおはなしなどを楽しんだ。

- ⑤ 夏休み子ども科学教室「顕微鏡をのぞいてみよう！」(全1回)(参加人数：27人)

科学への興味と読書意欲の増進を図るため、夏休みに科学教室を実施した。

- ⑥ 「めざせ！図書館マスター」(2回開催)・「図書館探検ブックにチャレンジ！」(配布冊数：510冊)本の探し方の基礎を身につけ、図書館での調べ物をする時のコツや楽しさを学ぶイベントを開催した。

- ⑦ 「えほんのひろば」

三日市幼稚園のほか、市内全小学校と2中学校、夏休み子ども教室、美加の台学園祭、奥

河内秋の文化祭（花の文化園）、あいつくなどにも出張して絵本の魅力を伝えた。

⑧ 「赤ちゃんタイム」・「こくじらひろば」

幼児への読書推進事業として、親と子のふれあいや図書館デビューとなる「赤ちゃんタイム」、親子で気兼ねなく乳幼児向け絵本を広げて楽しむことができる「こくじらひろば」を実施した。

⑨ 「パスファインダー（情報の調べ方ガイド）」の作成と配布

小学生向け・中学生向けを作成し、子どもたちが自分で情報を探す手がかりを提供した。

⑩ 「中高生のための考古学・古文書入門講座」（全1回）（参加人数：19人）

中高生にもわかりやすい内容の講座を行い、考古学や古文書への関心を高めるきっかけを提供した。

2. 図書館ボランティア活動推進事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① ボランティアのスキルアップ。
- ② おはなし会、対面朗読などの充実を図る。
- ③ さわる絵本や録音図書等の資料を増やす。

(2) 平成 29 年度の実績

① 対面朗読の実施

視覚障がい者等に希望の資料を朗読する対面朗読サービスを実施し、延べ64回の利用があった。

② さわる絵本・布の絵本の制作

視覚等に障がいのある方でも楽しめる布の絵本をボランティアの協力により、5タイトル制作した。また、さわる絵本を自由にさわって楽しむことができるイベント「さわる絵本・布の絵本大公開」も2回開催した。その中で、パソコンで絵と音声を楽しむ本「マルチメディアデイジー」も紹介した。

③ 「読み聞かせボランティア講座」（全5回、ボランティアとの協働事業）（参加人数：延べ43人）

④ スキルアップ講座「まど・みちおの詩と童謡」（全3回）（参加人数：延べ131人）

⑤ フォローアップ講座「絵本の世界をもっと深く楽しもう」（全1回）（参加人数：43人）
児童書に関する知識、選び方、読み聞かせの技術・知識などを学んだ。

⑥ おはなし会の開催（全83回）（参加人数：422人 参加ボランティア：延べ167人）
ボランティアとの協働でおはなし会を開催し、おはなしや読み聞かせ、わらべうた等を楽しんだ。

⑦ 「ようこそえほんといっしょ」事業を開催（全17回）（派遣ボランティア 延べ28人）
市乳幼児健診センターで実施される4か月児健康診査の会場で、保護者や乳幼児を対象に読み聞かせの実演などを行った（※本年度は1回台風により中止。次の回に集約して実施。）。

⑧ 夏休み高校生ボランティア

本の配架や整理と、傷んだ本の修理などを行う高校生ボランティアを募集した。3日間で延べ3人の参加があった。

3. 図書館内サービス事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 利用者の満足度を高めること。
- ② 図書館の利用を促進すること。

(2) 平成 29 年度の実績

① 図書館内での展示

多様なテーマの展示をのべ 6 8 回実施した。

② 出前貸出の実施

毎回 5 0 ～ 1 5 0 冊程度図書館資料から用意し、図書館外での講座会場にて来場者に貸出を行う出前貸出はのべ 4 7 回、合計 3 5 5 冊の貸出があった。

【担当：教育指導課】

1. 学校教育推進事業【継続事業】

(1) 事業の目的

創意と活力に満ちた特色ある学校園づくりに寄与し、子どもたちの心身ともに健やかな成長を図る。

(2) 平成 29 年度の実績

① 国語力向上事業

市立小中学校の司書教諭と連携し、貸出業務のほか、読み聞かせ、調べ学習(学習資料の活用)等の図書活動の補助をする学校図書館司書(10人)を市立全小中学校に配置し、児童生徒の読書活動を推進した。

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

【担当：図書館】

- ☐ 本市の将来を担っていく子どもたちの読書活動は重要であり、子どもたちをとりまく関係機関や地域との連携を図りながら、「河内長野市第3次子ども読書活動推進計画」に基づき読書環境の醸成などに取り組む。
- ☐ 多様な利用者に読書に親しんでもらうには、ボランティアとの協働は欠かせないものであることから、情報の提供やスキルアップの場の提供を進めるとともに、イベントなどでの協働により一層取り組む。
- ☐ 「河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」の改定と本方針に即した図書館サービスの着実な推進に取り組む。

【担当：教育指導課】

- ☐ 河内長野市第3次子ども読書活動推進計画に基づき、読書時間の増加に向けた取り組みとして、朝の読書の実施や読書ノートを活用等、子どもの読書活動の推進を図る。
- ☐ 学校図書館司書を継続して全校に配置し、季節やイベントに合わせた図書の展示を実施したり、夏選書や先生のおすすめ本紹介、卒業選書を作成したりして、子どもたちが様々な本に興味・関心を持つよう環境整備を図る。
- ☐ 司書教諭や教員、ボランティアと協力して、学校図書室の利用時間拡大を図るなど、児童生徒

の読書活動を支援する環境整備に努める。

- ☐ 司書教諭や教員、ボランティアと協力して、学校図書室の利用時間拡大を図るなど、児童生徒の読書活動を支援する環境整備に努める。

地域や市民の多様な課題を解決する地域の情報拠点としての役割が、今、公共図書館に求められている。そのためには課題解決に役立つ適切な資料を整備するとともに、インターネットを併用した情報収集ができる環境の整備や ICT を活用した情報提供や情報発信を積極的に行う必要がある。

また、生涯にわたって学ぶことができる環境を整えるには、公民館図書室や自動車文庫の資料整備なども欠かせない。高齢者や障がい者にも開かれた図書館をめざし、今後とも、さらなる利便性の向上と一層の利用機会の拡大や読書環境の充実など、課題解決型の図書館としての役割を認識し、環境整備の取組みを進める。

【平成 29 年度の主な取組み】

1. 課題解決型図書館に対応した情報発信や資料提供

本市の各地域や各世代の市民が直面する日常の課題の解決につなげるため、子育て、医療・健康、福祉やビジネスなどに関係する資料の充実を図るとともに、市民から寄せられたレファレンス（※）事例をデータベース化し、ホームページ等で公開するなど ICT を活用した情報発信に取り組む。

大活字本や録音図書などの資料を充実することにより高齢者や障がい者の利用の向上を図る。

貴重な郷土歴史資料を後世に伝えていくためにその修復・保存・活用に取り組む。

また、図書館の広域相互利用を継続することにより市民の生涯学習の場を拡大するとともに交流人口の増加に努める。

【事業名：図書館内サービス事業】

2. 公民館図書室・自動車文庫の資料整備など読書環境の拡充

図書館、公民館図書室や自動車文庫との間で、バランスのとれた蔵書構成となるよう整備を進めるとともに、リサイクル本を活用したコミュニティセンターへの文庫設置や福祉施設への団体貸出を実施することにより市内全域サービスを目指す。

【事業名：公民館ネットワーク事業、自動車文庫事業】

3. 高度情報化に合わせた図書館サービスの充実

市民の情報収集拠点である図書館として、市民が図書館資料とインターネットを利用して情報を入手できるように図書館に設置した Wi-Fi スポットの維持継続を図るとともに国立国会図書館が提供する電子書籍などを利用できるようにインターネット接続環境を提供する。

【事業名：図書館内サービス事業、図書館管理運営事業】

※ レファレンス：必要とする資料や図書に関する情報などを提供するサービス

平成 29 年度の重点目標評価					
妥当性	B	効率性	B	有効性	B
平成 29 年度の取り組み及び成果					

- レファレンスの事例公開件数は累計 70 件、データベースはのべ 415 件の利用があった。ホームページやメールマガジンを活用した情報発信を進めるとともに、医療・健康、子育て支援に関する本など、資料の充実に努めた。また、本市の高齢化が進展する中、誰もが読書を楽しめる環境の整備を進めるため、長寿ふれあい基金を活用して大活字本や録音図書、高齢者向け紙芝居、高齢者の健康促進につながるレクリエーション資料の整備や自動血圧計の設置を進めた。この他、いきいき高齢・福祉課とも連携し、認知症について気軽に意見交換できる「おれんじカフェ」開催の場を提供するとともに、関連資料の紹介にも取り組んだ。
- 劣化の進んだ楠木氏に関する貴重な郷土資料の修復・保存処理を実施。また、前年修復した資料は講座や展示を通して利活用にも努めた。
- 富田林市立図書館や大阪狭山市立図書館と連携しながら講座を開催し、また貸出カウンターにて、キャンペーン期間を設けて両市の開館時間等案内チラシを配布することで交流人口の拡大を図った。
- 図書館、公民館図書室、自動車文庫において、バランスのとれた蔵書構成となるよう整備をするとともに、美加の台駅構内や「道の駅 奥河内くろまろの郷」敷地内に返却ポストを新設し、図書の利用環境を向上させた。また、コミュニティセンター、病院、あいつくなどにリサイクル本を提供した。
- 市民の情報収集拠点である図書館として、オンラインデータベース端末席にて国立国会図書館が配信する歴史的音源及びデジタル化資料送信サービスの供用を開始した。

各事業の実績等

1. 図書館管理運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

図書館サービス提供に必要な施設環境の維持と適切な電算システムの管理運営をすることで、快適な資料の利用環境のより一層の充実に努める。

(2) 平成 29 年度の実績

① 適切な施設の管理運営

図書館施設が常に良好な状況で利用できるよう、施設管理業務や設備の保守点検管理業務などを行った。(図書館では、書誌情報、資料装備、自動車文庫の運行、資料集配、資料の修復などの外部委託のほか、施設の管理業務を指定管理者に一括して委託することにより、継続して民間を活用している。)

② 自動貸出機の設置による図書館利便性の向上

図書館内に自動貸出機を 2 台導入することで、気軽に資料を借りることができるよう利便性を向上した。また、貸出カウンターの集約を図ることで人員の配置を見直し、来館者への案内の充実に努めた。(6 月から稼働開始。6 月から 3 月末までの図書館貸出冊数の総数に占める自動貸出機による貸出冊数の割合の平均値：22%)

③ 快適な読書環境の維持

学生など自習者が多く来館するテスト期間の土・日曜日や夏休み期間(計 67 日)に、館外(キックス内)に自習室を開設することで、館内の静かな読書環境の維持に努めた(1 日あたり 19.9 人)。また、美加の台駅構内及び「道の駅 奥河内くろまろの郷」敷地内に返却ポストを設置し、返却の利便性を高めた。

④ 適切な図書館電算システムの維持管理

図書館電算システムを活用した資料管理や利用者情報の適切な運用を行うとともに、情報発信を行い、図書館サービスのPRに努めた。

⑤ 特別整理期間における蔵書点検の実施

図書館資料の適正管理並びに迅速な提供を目的に所蔵資料と所蔵データの照合・点検を行う蔵書点検を6月に実施した。

⑥ 安全安心な読書環境づくり

年2回の自衛消防訓練を市民交流センターや公共職業安定所などと連携して実施するとともに、防犯講習、救命講習や大阪880万人訓練をアルバイト・嘱託員を含めた全職員を対象に実施し、安全安心な読書環境づくりに努めた（全6回）（参加人数：延べ89人）

⑦ 職員研修の実施

司書の資質ならびにサービス向上を目的に、障がい者サービス（知的障がい者向けサービスなど）・高齢者サービス（認知症にやさしい図書館についてなど）・児童サービス（読書活動支援研修など）・レファレンスサービス（郷土資料や参考図書を使用した調査・回答の実務研修）など、多様なサービスに関する大阪府立図書館等で実施される外部研修に積極的に職員を派遣した（延べ12回）（参加人数：18人）。

⑧ 図書館事業評価の実施

平成26年3月に策定の「河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」に基づき、図書館事業の自己点検・評価を行うとともに、図書館協議会からも事業計画に基づき設定した目標を概ね達成しているとの評価を得た（図書館ホームページ掲載）。

⑨ 図書館をとりまく状況の変化、新たな課題などに対応した図書館運営のあり方について検討するため、7月18日～7月31日（自動車文庫は8月11日）の間に図書館来館者及び自動車文庫来場者へアンケートを配布し、利用状況、ニーズや満足度などを調査した。結果は861名の来館者（うち自動車文庫は52名）から回答を得ることができ、資料の充実、開館日数、職員の対応等いずれも高い満足度が示された。なお、本市の厳しい財政事情も踏まえた図書館休館日・開館時間の見直しにも一定の理解が示されており、図書館協議会に報告し、各委員からも貴重な意見を得た上で、図書館サービスの見直しとサービスの向上に取り組んだ。

2. 図書館内サービス事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 利用者の満足度を高めること。
- ② 図書館の利用を促進すること。

(2) 平成29年度の実績

本市の高齢化が進展する中、誰もが読書を楽しめる環境の整備を進めるため、長寿ふれあい基金を活用して大活字本や録音図書、高齢者向け紙芝居、高齢者の健康促進につながるレクリエーション資料の整備や自動血圧計の設置を進めた。また、いきいき高齢・福祉課とも連携し、認知症について気軽に意見交換できる「おれんじカフェ」開催の場を提供するとともに、関連資料の紹介にも取り組んだ。住民の課題解決に役立つ機能として、国立国会図書館が配信する歴史的音源及びデジタル化資料送信サービスの供用を開始した。

① 貸出

個人貸出（自動車文庫の貸出点数を含む）は938,119点（内訳は一般書610,323点、児童書230,520点、視聴覚資料24,398点、雑誌67,379点、録音図書

5, 499点)、団体貸出は26, 963点(自動車文庫・公民館図書室での貸出含む)であった。

② 図書館開館日数・入館者数

図書館は330日開館し、448, 287人の入館者があった。

③ 登録者数(公民館図書室・自動車文庫での登録を含む)

項 目	新 規	総 数
男 性	1, 673人	16, 900人
女 性	2, 548人	25, 399人
計	4, 221人	42, 299人

④ 資料数 422, 507点(図書資料・視聴覚資料・録音図書を含む)

⑤ 複写サービス 著作権法に基づく図書館資料の複写サービスを行った。

モノクロ30, 840枚 カラー4, 259枚

⑥ 予約・リクエストサービス

予約・リクエストサービスに対応した件数は156, 914件(Web予約100, 944件含む)。自館での対応だけでなく府立図書館や近隣の図書館などから延べ8, 182冊の図書を借り受けて資料提供に努めた。

⑦ 障がい者サービス

ボランティアによる対面朗読、点字・録音図書の製作のほか、1, 656点の郵送貸出を行った。

⑧ 調査相談(レファレンス)サービス

延べ908件の調査相談があった。

⑨ 高齢者に向けたサービスの充実

自動血圧計(1台)をいきいき健康コーナーに設置。長寿ふれあい基金を活用して大活字本34冊、録音図書15セット、福祉施設で活用できる高齢者向け紙芝居やレクリエーションに役立つ本を107冊を購入し、市民が日々健康に過ごすための環境の整備に努めた。

3. 公民館ネットワーク事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 市内どこでも本の予約・貸出・返却ができること。
- ② 図書館システムとしてバランスのとれた蔵書をつくること。

(2) 平成29年度の実績

① 図書館と公民館図書室との相互貸借状況

市内の全域で等しく図書館サービスを利用できるよう、公民館図書室とのネットワークの充実を図り、バランスのとれた蔵書構成になるよう資料の整備を行った。

図書館と公民館との相互貸借状況

(単位: 冊)

	公民館	千代田	川上	天見	加賀田	三日市	南花台	高向	天野	計
図書館	公民館へ	8, 492	2, 909	1, 962	4, 152	7, 530	12, 488	2, 138	4, 455	44, 126
	図書館へ	732	396	258	335	568	846	294	268	3, 697
	計	9, 224	3, 305	2, 220	4, 487	8, 098	13, 334	2, 432	4, 723	47, 823

<公民館図書室蔵書冊数> (単位:冊)

一般書蔵書冊数	児童書蔵書冊数
30,684	31,298

② 団体貸出での集配送の実績

市内各地域での読書機会の拡大を図るため、放課後児童会、幼稚園、保育所、認定子ども園、小学校、中学校のほか福祉施設、地域団体等への集配送サービスを行い、貸出利用を促進した。

	配送件数	配送冊数	返送件数	返送冊数	合計件数	合計冊数
小学校	103	4,405	71	4,125	174	8,530
中学校	13	257	15	406	28	663
放課後児童会	155	7,935	134	7,012	289	14,947
幼稚園・保育所	4	288	6	498	10	786

※放課後児童会への夏休みおたのしみパック（定期貸出）及びえほんのひろばでの貸出を除く。

4. 自動車文庫事業【継続事業】

(1) 事業の目的

図書館・公民館図書室の利用が困難な地域住民に、身近な図書館サービスを提供する。

(2) 平成 29 年度の実績

市内のあらゆる場所で等しく図書館サービスを利用できるよう、市内に23箇所のステーションを設け、自動車文庫による巡回を行った。

① 自動車文庫利用の利便性向上への取り組み

自動車文庫では、資料の貸出・返却の受付のほか、予約・リクエスト申込の受付や、巡回用ノートパソコンによる蔵書検索も行い、利用者へ速やかな図書館資料情報の提供を行った。また、車内には定期的に季節に応じた内容の展示コーナーを設けたほか、健康への関心を高めてもらうため、自動血圧計を1台設置し、来場者の意識向上に努めた。

② 自動車文庫利用促進への取り組み

自動車文庫利用促進のため、ステーションの近隣自治会にPRチラシを送付した。

自動車文庫蔵書冊数

一般書蔵書冊数	児童書蔵書冊数
9,161冊	9,635冊

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 課題解決型図書館として、コミュニティの核となる情報拠点の役割を果たしていくことをめざす。
- ☐ 高度情報化社会に即したインターネットと図書館資料の利用環境の整備。
- ☐ 高齢者の健康で文化的な生活を支える情報環境の整備。
- ☐ 障害者差別解消法に対応した図書館利用に障がいのある方へのサービスの充実。
- ☐ 「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」に基づき、経済的で快適な読書環境の整備を目的

に図書館閲覧室内照明ＬＥＤ化を推進。

- ☐ 市史編纂のため収集された資料を含む郷土歴史資料の保存活用。
- ☐ 視聴覚コーナーの改装を検討し、閲覧席の拡充による新たな利用者増を図る。